

COMSYS Group CSR REPORT 2013

コムシスグループ CSR レポート



編集方針

「COMSYS Group CSR REPORT 2013」は環境に配慮し、Webサイトを中心にPDFを活用した開示方法を利用しています。皆様のご理解のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

「COMSYS Group CSR REPORT」は、コムシスグループのCSR(企業の社会的責任)に関する考え方と活動状況をステークホルダーの皆様に、分かりやすく報告することを目的として発行しています。本レポートでは、「本業を通じた社会貢献」をテーマとした事例を特集したほか、グループ各社の2012年度の個々の活動を、ISO26000の「7つの中核主題」に準拠した章構成で報告しています。

■報告対象分野

事業活動の社会・環境の両側面についての取り組みを報告しています。

■報告対象範囲

コムシスホールディングス株式会社および主要事業会社

■報告対象期間

2012年度(2012年4月～2013年3月)の取り組みについて報告していますが、2013年4月以降の活動や情報についても一部報告しています。

■参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第3版」

環境省「環境報告ガイドライン2007年度版」

ISO26000：2010年11月1日に発行された国際規格で、企業にとどまらず多様な「組織」を対象とし、持続的な発展と開発への貢献を促すことを目的とするガイダンス。7つの原則(行動規範)と7つの中核主題を掲げ、関連する課題や具体的なアクションプランを挙げて、社会的責任を果たしていくための具体的活動例を示しています。

■次回発行予定

2014年9月

URL ▶ <http://www.comsys-hd.co.jp/>

コムシスホールディングス会社概要

社名	コムシスホールディングス株式会社	連結従業員数	9,798人(2013年3月31日現在)
英文社名	COMSYS Holdings Corporation	単独従業員数	43人(2013年3月31日現在)
設立日	2003年9月29日	主要事業会社	● 日本コムシス株式会社(以下日本コムシス)
所在地	東京都品川区東五反田2-17-1 TEL 03-3448-7100(代表)	(詳細はp.1)	● サンワコムシスエンジニアリング株式会社(以下サンワコム)
資本金	100億円		● 株式会社TOSYS(以下TOSYS)
連結売上高	3,160億円(2013年3月期)		● 株式会社つうけん(以下つうけん)
連結経常利益	229億円(2013年3月期)		● コムシス情報システム株式会社(以下CJS)
			● コムシスシェアードサービス株式会社(以下CSS)

CONTENTS

コムシスグループの組織体制	1
コムシスグループの事業概要	2
トップコミットメント	3
特集1 太陽光発電による貢献	6
特集2 グループ会社の再編	8
特集3 重要課題の選定	10
組織統治 / よりオープンに、より厳正に	13
人権 / 相手を尊重し、信頼を築く	16
消費者課題 / お客様目線で企業競争力アップ	17
環境 / 地球環境課題の解決に向けて	23
労働慣行 / 働きがいのある職場環境を目指して	28
公正な事業慣行 / オープン・フェアな企業文化	38
コミュニティへの参画 / 地域とともに育てていただく	42
● 参考資料	
コムシスグループ CSR のあゆみ	48

コムシスグループの組織体制 (2013年9月1日現在)

コムシスホールディングス株式会社



日本コムシス株式会社

日本コムシス

設立日 1951年12月20日
 所在地 東京都品川区東五反田2-17-1
 TEL 03-3448-7030
 代表者 代表取締役社長 伊東 則昭
 執行役員社長 伊東 則昭
 資本金 311億円
 従業員数 連結4,725名
 単独3,099名
 (2013年3月末現在)
 売上高 連結1,971億円
 単独1,779億円
 (2013年3月期)

- 日本コムシスグループ
- コムシスマイル(株)
 - コムシスエンジニアリング(株)
 - ウィンテック(株)
 - コムシス関西エンジニアリング(株)
 - コムシス九州エンジニアリング(株)
 - (株)フォステクノ四国
 - 通信電設(株)
 - 日本海通信建設(株)
 - 八代通信建設(株)
 - コムシスネット(株)
 - コムシス東北テクノ(株)
 - コムシス通産(株)
 - (株)大栄製作所



サンコムシス エンジニアリング株式会社

サンコム

設立日 1947年9月12日
 所在地 東京都杉並区高円寺南2-12-3
 TEL 03-6365-3111
 代表者 代表取締役社長 山崎 博文
 資本金 36億2,471万円
 従業員数 連結1,522名
 単独 725名
 (2013年3月末現在)
 売上高 連結583億円
 単独499億円
 (2013年3月期)

- サンコムグループ
- 三和電子(株)
 - (株)エス・イー・シー・ハイテック
 - サンコムテクノロジ(株)



株式会社TOSYS

TOSYS

設立日 1960年1月23日
 所在地 長野県長野市若穂綿内字東山1108-5
 TEL 026-213-8920
 代表者 代表取締役社長 小川 亮夫
 資本金 4億5,000万円
 従業員数 連結 994名
 単独 647名
 (2013年3月末現在)
 売上高 連結275億円
 単独221億円
 (2013年3月期)

- TOSYSグループ
- (株)アルスター
 - (株)トーシス新潟
 - チューリップライフ(株)



株式会社つうけん

つうけん

設立日 1951年4月2日
 所在地 北海道札幌市白石区本通19丁目南6-8
 TEL 011-860-1161
 代表者 代表取締役
 代表執行役員社長 三浦 秀利
 資本金 14億3,293万円
 従業員数 連結1,856名
 単独 462名
 (2013年3月末現在)
 売上高 連結396億円
 単独281億円
 (2013年3月期)

- つうけんグループ
- (株)つうけんアドバンスシステムズ
 - (株)つうけんテクノネット
 - (株)つうけんテクノロジー
 - (株)つうけんアクト
 - つうけんビジネス(株)
 - (株)つうけんセピア
 - (株)つうけんハーテック
 - (株)つうけん道央エンジニアリング
 - (株)つうけん道北エンジニアリング
 - (株)つうけん道東エンジニアリング
 - (株)つうけん道南エンジニアリング



コムシス情報システム株式会社

CJS

設立日 2009年4月1日
 所在地 東京都港区高輪3-23-14
 TEL 03-3448-8100
 代表者 代表取締役社長 工藤 賢
 資本金 4億5,000万円
 従業員数 連結511名
 単独371名
 (2012年3月末現在)
 売上高 連結94億円
 単独75億円
 (2013年3月期)

- コム情グループ
- コムシステクノ(株)



コムシスシェアード サービス株式会社

CSS

設立日 2003年10月1日
 所在地 東京都港区高輪3-23-14
 TEL 03-3448-7141
 代表者 代表取締役社長 上脇 晃一郎
 資本金 7,500万円
 従業員数 147名
 (2013年3月末現在)
 売上高 32億円
 (2013年3月期)

グループ企業の業務について

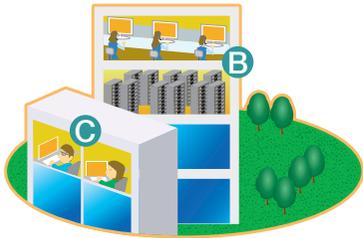
通信キャリア様のほか、官公庁および一般企業各社を主たるお客様としていますが、通信キャリア様に関しては統括事業会社のうちの4社がお客様や営業地域によってセグメントされており、日本コムシスはNTT様およびNTTドコモ様を、サンコムはKDDI様やソフトバンク様をはじめとするNCC (New Common Carrier) を、TOSYSは信越地域のお客様、つうけんは北海道地域のお客様を対象として、情報通信インフラの設計から工事・保守・運用までのサービスを提供しています。CJSはソフトウェア開発をはじめとする情報システムの開発を主な業務として、経理・財務・総務人事業務関連のサービスを提供するCSSとともに、グループ全体をバックアップしています。

コムシスグループの事業概要 ~ “つながりを支える” コムシスグループ



ICTソリューション

さまざまな技術やサービスを駆使して、お客様のご要望に合わせて、多岐にわたるソリューションを提供します。



コモンプラットフォーム ⑩

通信キャリアのネットワーク構築で培った高度なインフラ構築技術をいかし、お客様のご要望に合わせたプラットフォームを構築します。

ICTプラットフォーム ⑪

増加するデータ資産を高速で送受信するために、特別な圧縮技術やWAN高速化装置などの最新技術により、物理的な制約にとられない高速ネットワークを提供します。さまざまなセキュリティ技術を使い、光ファイバーやLANケーブルの中を流れる大切な情報を安全・正確に伝達する環境を構築します。

コミュニケーションソリューション

次世代コラボレーションプラットフォーム「comsip」をベースとした、テレフォニーソリューションやコンタクトセンターソリューションにより、理想的なコミュニケーションプラットフォームを構築します。

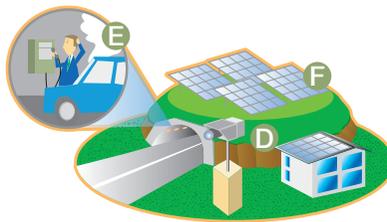
ICTマネジメントサービス

フルアウトソースサービスの提供から、フルタイムの遠隔監視・全国駆け付け保守対応などのさまざまなICTマネジメントサービスにより、お客様の煩雑な運用業務を軽減するとともに、いつでも快適なシステム環境をご利用いただけるようサポートしています。

社会システム

地震や台風、大雨などの自然災害を監視・予測するシステムや自然エネルギーを活用した発電システムを提供します。

※右記工程は、監視システムの場合。



設計

設置エリアの指定を受け、監視カメラなど機器の設置計画を立案します。有線か無線かの判断、使用機器の選定や手配などを行います。

工事

工事計画に沿って、監視カメラの設置、ケーブル接続など、システム導入のための工事を行います。

保守

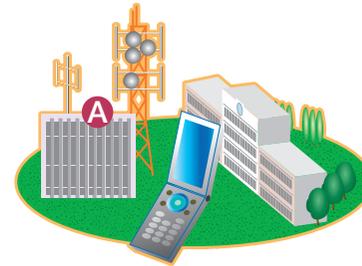
システムや設置機器のメンテナンスを行い、管理者であるお客様が快適にシステムをご利用いただけるようサポートします。

例えば

- ・監視カメラ ⑫ (火山、地震、道路など)
- ・トンネル通信設備、防災設備 ⑬
- ・太陽光発電設備 ⑭
- ・共同溝設備 ⑮ ・電気設備

無線ネットワーク

快適な携帯電話ネットワークを構築するために基地局の設置工事をを行います。設置エリアの調査から工事後の保守まで手がかけます。



折衝・コンサル

基地局を必要とするエリアの事前調査を行います。結果をもとに設置場所を選定し、設置候補地に関する折衝も行います。

設計・施工

工事計画を立案し、施工を行います。設置場所の条件・環境によっては、基地局を設置するための鉄塔を建設する場合があります。

保守

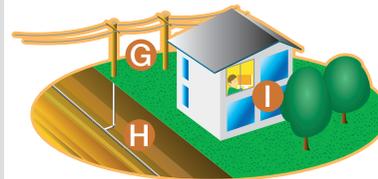
設置工事後は、運営中に故障や異常が生じた場合の対応も行っていきます。また、既存エリアの品質調査を実施する場合があります。

例えば

- ・携帯電話基地局設置 ⑯
- ・携帯電話品質調査
- ・無線LAN

有線ネットワーク

通信キャリアの通信設備構築やメンテナンス、各ご家庭への光ファイバの敷設・接続業務などを行います。地下ケーブル専用のトンネル工事なども実施します。



設計

ケーブルを地下から引くか、電柱から引くかなど、接続するルートを選定します。決定後は、ルート開通に必要な工事計画を立てます。

工事

工事計画に沿って接続工事を行います。お客様のニーズに合わせて、納品後のメンテナンスも請け負っています。

回線増設

将来のさらなるネットワーク拡大に伴うニーズ増加に備え、通信キャリアの需要予測に基づいて回線や交換機の増設工事を行っています。

例えば

- ・通信キャリア設備 ⑰
- ・固定電話回線 ⑱ (地下ケーブル・電柱)
- ・光回線 (FTTH) ・CATV ⑲

通信建設業界のトップブランドとして 社会的使命を果たす

コムシスグループは通信建設業界のリーディングカンパニーとして、通信インフラ整備を通して社会に貢献してきました。「通信ネットワークによって人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりに貢献」することをCSR理念として掲げ、まず第1に本業を進めることで持続可能な社会の実現を目指しています。

コムシスホールディングス株式会社
代表取締役社長

高島 元

コムシスグループのCSRの考え方

近年、スマートフォンやタブレット型端末等の普及に伴い、LTE・Wi-Fiなどのサービスエリアの拡大やサービスの多様化・高度化に向けた通信ネットワーク環境の整備・構築が急速に進んでいます。また、政府の進めるICT（情報通信技術）成長戦略が、経済活動の効率化や国民生活の利便性向上などの豊かな社会の実現に向けて大きく貢献することが期待されています。

このような環境のもと、コムシスグループでは安心・安全・便利なネットワーク社会の実現に向けた取り組みを強化していますが、この事業活動・経営活動そのものが私たちのCSR活動であると考えています。創業以来培ってきた高度な技術力を核として、本業を正々堂々と進めていくこと、そのプロセスと結果で社会の持続的発展への貢献を目指します。

本業を通じた貢献

東日本大震災以降、グループの総力を挙げて通信設備の復旧工事に尽力してきました。多くの現場で培ってきた工事マネジメントの実力が復旧・復興工事にも発揮され、お客様や同業他社から高い評価をいただいています。引き続き、広域災害への耐性を備えた強固な社会インフラを構築し、私たちの使命を果たしていきます。

コムシスグループでは、新たな成長戦略を掲げて、筋肉質な業務運営体制への変革を目指しています。

まず一つ目は、保守・運用ビジネスです。保守・運用ビジネスに向けた提案力を高めて受注を増やし、アクセスだけではなくネットワークも含めて今後の中核事業のひとつにしていくことを考えています。そのためには人材育成がカギとなりますが、より短期間でマルチスキルを持つ人材を育成することが課題です。通信インフラ工事とは異なる要素が非常に多い事業ですが、コムシスグループの持つポテンシャルと、すでに積み上げてきた保守・運用業務の実績を駆使し、発注者様のニーズに十分に応えることができると確信しています。

もうひとつは、太陽光をはじめとする再生可能循環型エネルギーの分野です。太陽光発電設備の建設と保守・運用を受注していく傍ら、発電事業を展開し、

2013年3月には茨城県常陸太田市に大規模太陽光発電所を完成させ、4月より運用を開始しています。

上下水道事業も、今後のグループ成長のカギとなると考えています。中水ビジネスについても、2012年10月から第1号案件が稼働し、さらなる受注を目指しています。このほか、新宅内、サーバ系、ITマネジメントサービスなども、マーケットの進展に合わせて展開していく考えです。

上記のように、グループの力を結集させてさまざまな挑戦を行っていくことで、ほかにはないビジネスモデルを構築し、コムシスグループの社会的価値の創出を目指していきます。

安全と品質を確保するために

持続可能な企業として存続するためには、ステークホルダーから信頼される企業でなければなりません。私たちは、事業活動を行う中でも、安全・品質を確保することを重要な課題のひとつとして意識し、日々の業務に取り組んでいます。

事故が目立った2008年以降、「事故を限りなくゼロに近づける」という強い意志のもと、「安全・品質は作り込むもの」というスローガンを掲げ、改めて安全・品質確保の重要性をグループ全体で確認してきました。班長スキルの向上、安全品質ワークフローの遵守、安全知識の向上や安全パトロールなど、経営陣から現場の社員までが一丸となって安全施策に取り組んでいます。現在では、一人ひとりが安全と品質の向上に万全の注意を払ってきたことの成果が見え始め、事故件数は減少しています。新しい切り口、新しい活動方針を細部にわたって取り入れて、さらにノウハウとして蓄積することで、「安全品質の作り込み」の仕組みづくりを続けていきます。

筋肉質な企業グループへ ～ COMSYS WAY^α

コムシスグループでは、市場環境や業界の構造がどのように変化しても継続的に社会に貢献できる筋肉質な企業組織を創るため、構造改革「COMSYS WAY」を推し進めてきました。2012年度はそのひとつとして、重複している業務の解消や生産性の向上を目的に、旧東京通建、旧日東通建と日本コムシスのドコモ事業の一部を再編し、新会社「コムシスマバイル株式会社」を発足させました。この再編は、コムシスグループ各社が共通して抱える経営課題の解決を実現するためのひとつのモデルでもあります。このほか、2012年10月には日本電通工業・徳島通信建設を再編し、「株式会社フォステクノ四国」を発足。つうけんにおいては、ネットワーク、モバイル事業の移管や、北東電設との合併を通じ、事業の再編（片寄せ）を行うなどの取り組みを実施しています。今後は、各事業部門やエリアごとの特性を踏まえながら、横展開していくことも視野に入れていきます。

2013年度からは、これまでの構造改革「COMSYS WAY」を進化させた「COMSYS WAY^α (COMSYS WAY ADVANCED)」に取り組んでいます。「トップラインの拡大」と「施工ITプラットフォームの構築」をキーワードとして、受注や新規ビジネスの拡大、受注から施工管理までのトータルマネジメントの仕組みづくり、ITシステムを使用したバックヤード業務の見直しなど、生産性や効率性の向上に向けた取り組みを積極的に行ってまいります。

CSR重要課題の選定 ～ 4つの道しるべ

また、新たな取り組みとして、2013年7月にはコムシスグループの重要課題を選定しました。

これまでコムシスグループでは、グループ全体を統括する「CSR委員会」が中心となり、コンプライアンス、コーポレート・ガバナンス、リスク管理、情報開示、情報保護、セキュリティ対策、社会貢献、環境などのテーマを対象としてCSR活動に取り組んできました。今後、より積極的なCSR活動を推進するために、優先的に取り組むべき課題を掲げています。

選定した課題は、(1) 安心・安全な業務体制、(2) 品質へのこだわり、(3) 人づくり、(4) 継続的なBPRの4つです。これらは、これまで取り組んできた各種方針や「COMSYS WAY」「COMSYS WAY^α」の考え方を土台としたものですが、改めてグループ内で課題を共有することで、コムシスグループが目指す「4つの道しるべ」としてCSRに対する意識を一段と高めていきます。

使命を果たすために

コムシスグループが社会的使命を果たすためには、4つの重要課題を軸に、本業を通じて、一人ひとりがCSR活動に取り組んでいくことが必要です。業界のトップブランドとして、コムシスグループならではの活動を推進することにより、さまざまなステークホルダーの期待に応え、社会に貢献できる企業として成長を目指します。

今後とも、皆様の変わらぬご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

1 人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりに貢献 太陽光発電による貢献

特集



近年、地球環境保全活動の一環として、CO₂や有害な排気ガスを出さないクリーンな太陽光発電が注目を浴びています。コムシスグループでは、自社の強みを活かし、太陽光発電事業を積極的に展開しています。

社会 ノウハウを活かした社会貢献

Society

コムシスグループは通信建設業界のリーディングカンパニーとして培ってきた、電気、建築、土木などのさまざまなノウハウ、人材、技術がすべて自社内にあります。これらの総合力を強みとして活かし、潜在力を一層発揮しうる新たな事業領域として、地域社会への貢献を目指しています。



基礎設置工事

この強みを活かし、1996年に開始した太陽光発電事業では、2012年現在、EPC（設計・調達・建設）やO&M（維持・管理）だけでなく、IPP（独立系発電）事業にも取り組んでいます。

2013年3月には、茨城県常陸太田市に通信建設業界で初となる大規模太陽光発電所（メガソーラー）「サン・ファクトリー檜山」を完成させ、2013年4月より稼働を開始しました。続けて、群馬県昭和村、三重県津市でも稼働の準備を進めています。

今後は、ミドルソーラーやスモールソーラーについても自分たちのテーマとして捉え、取り組みを検討していきます。

環境 CO₂削減による環境負荷の低減

Environment

太陽光発電は、CO₂や有害な排気ガスを出さないクリーンな発電方法として注目を浴びています。

太陽光パネル9,600枚を設置した「サン・ファクトリー檜山」では、年間の発電電力量を約280万kWhと想定し、

年間約1,300 tのCO₂排出量削減効果を見込んでいます。また、このメガソーラーのパワーコンディショナ温度制御システムには、コムシス独自の技術である、エアコン冷却と有圧扇冷却のハイブリッド型を導入しています。加えて、詳細な予想発電量の算出が可能なソフトを導入し、パワーコンディショナの運用に関わる消費電力量の削減を図っています。温度制御システムの年間消費電力量の削減率は、有圧扇主体の温度制御を行うことで、エアコン冷却のみによる消費電力量に対し、75%の削減を見込んでいます。最適な運転をすることで、省エネ化を実現し、エネルギー効率を上昇させています。これらも、通信工事で培ったノウハウを活かしたコムシスならではの独自色が出ています。



経済 新規ビジネスによる企業価値の創造

Economy

太陽光ビジネスをはじめとするグリーンイノベーション事業は、コムシスグループにとって新規事業となります。この新規事業のさらなる拡大が、コムシスグループが進める構造改革「COMSYS WAY^a」の「トップラインの拡大」施策につながると考えています。具体的には、EPC受注で、2012年度に60億円だった受注高を2013年度は80億円程度にまで伸ばすことを計画しています。



環境にやさしく、社会貢献ができる事業としての側面だけでなく、コムシスグループにとっても、持続可能な企業としての一役を担う事業として、成長を見込んでいます。

太陽光発電所ができるまで



① 草刈り



② 整地



③ 杭打ち



④ 架台設置



⑤ 安全パトロール



⑥ 機器設置



⑦ パネル設置

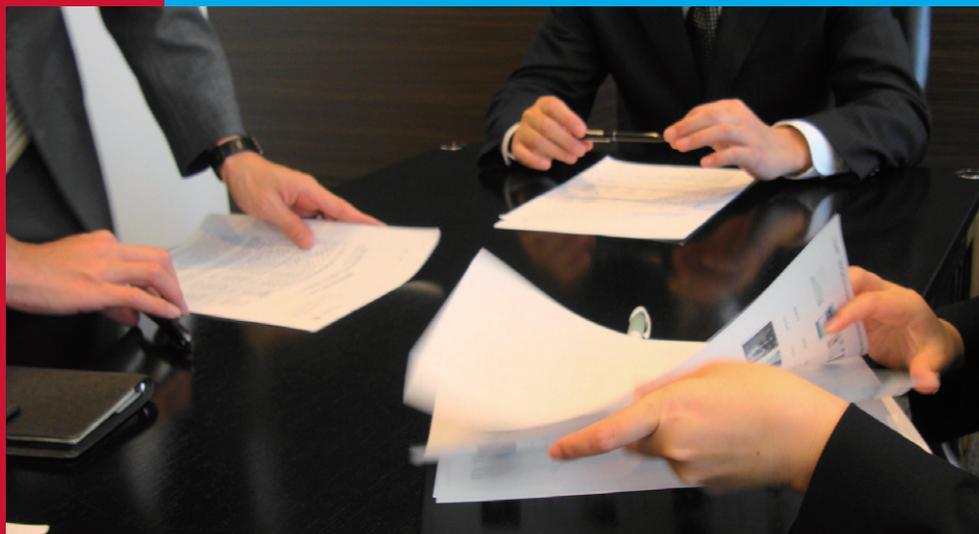


⑧ 設置完了



⑨ 完成

特集 2 COMSYS WAY の推進 グループ会社の再編



コムシスグループは将来の需要構造の変化に対応するため、構造改革の継続と深化を推進しています。その一環として、2012年10月に連結子会社である東京通建、日東通建と日本コムシスのドコモ事業の一部を統合・再編し、「コムシスマイル株式会社（略称：CMC）」を発足させました。

統合・再編の経緯

日本コムシスグループにおけるモバイル事業とネットワーク事業をより筋肉質な体制に変革するため、2012年10月1日、モバイル事業については、東京通建と日東通建、および日本コムシスのドコモ事業の一部を「コムシスマイル株式会社」に統合し、東京通建と日東通建のネットワーク事業については、「コムシスネット株式会社」に統合しました。

このたびのモバイル事業の再編は、社員の雇用を守ることを大前提に、多層化かつ重複している業務や、効率性の低い業務の役割分担の抜本的な見直しにより、元請会社と一次業務会社の業務効率を向上させることを目的としています。具体的には、日本コムシスでは企画および営業・折衝・コンサル等を含む戦略的業務を中心に、コムシスマイルでは設計や施工等の技術エキスパート業務を中心に位置づけました。今後、コムシスマイルでは旧東京通建と旧日東通建の社員の融合を図りつつ、4つの重点施策を掲げ事業を運営していきます。

一つ目は、『工事の無事故遂行と品質の向上』です。最優先の取り組み事項に位置づけ、安全・品質を担保していきます。二つ目は、『事業計画の必達』です。効率的な業務運営を行い、統合効果を反映した適正利益を確保していきます。三つ目は、『構造改革の施策継続と効果の創出』です。役割分担の定着を図り、現場の声を活かしながら、問題点の洗い出しと改善を行っていきます。最後に、『働き甲斐のある職場づくり』です。新しい人事制度の定着を図り、公正・公平な人事制度を実施していきます。

社員の交流活性化とモチベーションの向上

仕事のやり方や文化の異なる会社同士が合併して発足したコムシスマイルにおいては、社員間の意思疎通、モチベーションの維持・向上が重要であると考えています。

再編を行う際には、構造改革の狙いや意味を現場レベルに浸透させるため、社長・常務が各地域を回って説明会を開き、積極的に社員と直接コミュニケーションを図りました。再編後には、「現場の悩みを聞く会」を実施し、新体制や仕事のやり方、気持ちの変化などについての現場の意見を今後の事業運営に活かす取り組みを行っています。

一方、日本コムシスにおいても、現場の率直な意見を取り入れ、新体制に活かす取り組みを行っています。

また、新体制のもとでの一体化をより促進させるため、若手社員を中心とした『CMC一体化プロジェクト』として、4つのプロジェクトチームを発足させました。

まず第一優先で取り組んだのは、“企業ブランド意識向上”に向けた社旗、社章、コーポレートカラーの作成であり、発足して初めて迎える新年度のスタート（2013年4月1日）に間に合わせました。また、“職場活性化”に向けて「俺たちNo.1」を決めるベストTS（テクノステーション）コンテスト、“現場力強化”に向けてTS間の相互人材交流（例えば、旧東京通建主体のTSに旧日東通建の社員を派遣して、文化の違いや仕事の仕方の違いを実感してもらい相互改善に役立てるなど）、“協力会社を含めた一体化”に向けて各支店における班長会等の現状を明らかにするとともに、その在り方について提案し水平展開につなげる、といった検討を進めており、それぞれ年度内の実施を目指しています。

ドコモ事業本部の最大のミッションは、ドコモ事業を日本コムシスを支える重要な事業として、今後も引き続き発展させていくことです。

今回の再編では、東京通建および日東通建2社の再編に止まらず、元請である日本コムシスを含めた3社の再編を実施することにより、より効果的な事業運営を目指しました。3社を再編したことで、業務内容や人事配置の変更を伴いましたが、今回の再編を早期に軌道に乗せて成果を最大限にするためには、元請コムシスの社員とコムシスマobileの社員お互いが協力し合いながら業務を進めていく必要があると考えています。このことを社員に対して意識づけていくとともに、自らも肝に銘じて事業に邁進していく所存です。

日本コムシス
取締役常務執行役員
ドコモ事業本部長
西山 剛



現場では、一次会社としての新たなミッションのもと、抜本的な業務プロセスの変更に取り組んでおり、成果が出始めていると感じています。構造改革を進めるには、社員の理解と協力が必要です。そのためにも、経営陣が社員との密なコミュニケーションを図り、より高い安全性と業務品質を向上させていくことが、われわれ企業としての社会的責任であり、新会社としての新たな挑戦と捉えています。

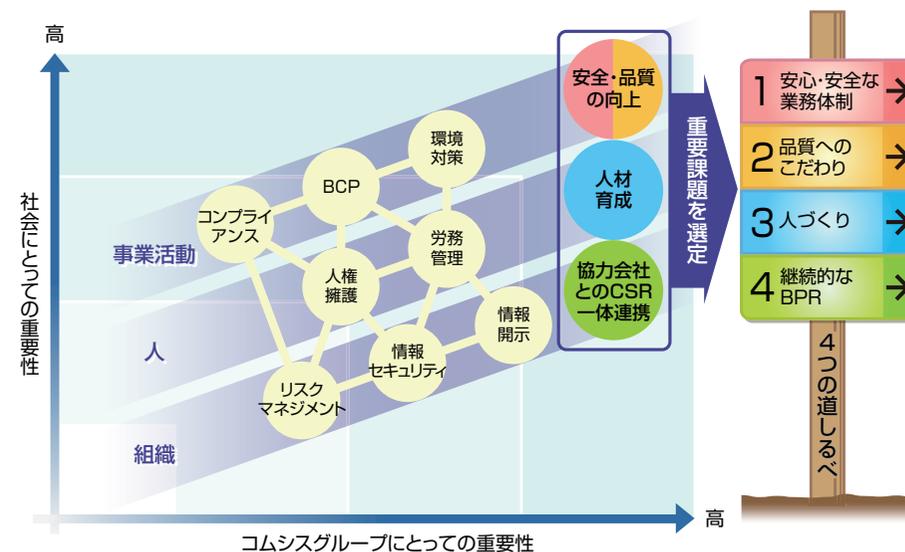
社員に対しては、失敗を恐れず、常に挑戦する姿勢を持って日々の業務に取り組んでもらいたいと考えています。Change、Challenge、Communicationの3つの「C」を常に意識した日常業務の遂行を期待しています。

コムシスマobile
代表取締役社長
相上 義明





コムシスグループCSR課題MAP



- * 「事業活動」「人」「組織」の領域の重要度については、MAP上の配置に関わらずすべて同程度の重要度と考えています。
- * 各課題は、特に密接に関わる領域に配置していますが、他領域にも関わる課題については、橋を架ける表現で表しています。

4つの道しるべを選定しました

コムシスグループでは、「通信ネットワークによって人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりに貢献」することをCSRの理念としています。今回、その理念を実現するため、新たに重要課題を選定し、より積極的なCSR活動を推進することとしました。

課題の選定にあたっては、事業と関わりの深い社会的な課題とグループの経営戦略「COMSYS WAY」を軸として優先して取り組むべき課題を抽出し、「4つの道しるべ」として位置づけています。

1 安心・安全な業務体制

仲間を守る 安心と安全をどこまでも追求するために

コムシスグループでは「安全は作り込むもの」との考えから、経営トップから現場スタッフ・作業員まで、日々の業務活動において常に意識し、安全を作り込み続けます。



2 品質へのこだわり

高品質の「さらに上」を目指すために

コムシスグループの競合他社とのさらなる差別化とお客様満足獲得のため、コストを意識した品質の向上を追求し、より良い・より高品質な製品を作り続けます。



3 人づくり

「COMSYS WAY[®]」の担い手を生み育てるために

企業の強さは「人」であり、人材が唯一の財産でもあります。厳しい事業環境下において、継続的に利益を上げ続ける会社であるため、技術・ノウハウの継承、多能工育成等、コムシスグループ全員で「人」を育てる文化を築いています。



4 継続的なBPR

高いバリューのコムシスグループへたゆまず変革するために

コムシスグループは、どのような環境変化があっても生き抜ける事業構造を作り、筋肉質で強い会社、業界の中でエクセレントな企業グループを目指していきます。そのために、2013年度より構造改革「COMSYS WAY[®]」を新たに掲げて、バックヤード業務を見直すことによる最適型ワークスタイルの確立、公共投資や民間設備・情報化投資の増大に対応した受注拡大など、構造改革の進化とトップラインの拡大を目指していきます。



今回のレポートから、私たちはCSR活動において「4つの道しるべ」を掲げ取り組むことといたしました。

CSR「4つの道しるべ」は、経営の基本である「COMSYS WAY[®]」を土台とした、グループCSR活動の主軸となるものです。今後はこれらの道しるべを通じて、私たちのミッションを果たしたいと思います。CSRには「継続的なBPR」や「人づくり」といった【攻め】と、「安心・安全な業務体制」や「品質へのこだわり」といった【守り】を兼ね備えた取り組みが必要ですが、今回の「4つの道しるべ」はそれにふさわしい指針だと考えております。

私たちは、この「4つの道しるべ」のもとで、一歩一歩前に進んでまいりたい
と
思います。

コムシスホールディングス
CSR推進室長
山本 智昭



2012年度の活動報告

ステークホルダーの皆様に向け、社会的責任に関する国際規格 ISO 26000における7つの中核課題に則り、ともに社会的価値を創造していくための取り組み

組織統治

→ p.13~

よりオープンに、より厳正に

- ▶ 公平かつ透明性のあるIR活動を推進
- ▶ 事業継続

人権

→ p.16

相手を尊重し、信頼を築く

- ▶ 人権の尊重

消費者課題

→ p.17~

お客様目線で企業競争力アップ

- ▶ 品質へのこだわり
- ▶ お客様満足度向上に向けた取り組み

環境

→ p.23~

地球環境課題の解決に向けて

- ▶ 温室効果ガスの削減に向けた取り組み
- ▶ 環境保全について考える取り組み

労働慣行

→ p.28~

働きがいのある職場環境を目指して

- ▶ 安心・安全な業務体制
- ▶ 健康管理
- ▶ 人材育成
- ▶ 従業員とのコミュニケーション
- ▶ ダイバーシティの推進
- ▶ ディーセントな労働条件の提供

公正な事業慣行

→ p.38~

オープン・フェアな企業文化

- ▶ コンプライアンス
- ▶ リスクマネジメント
- ▶ 公正な競争・取引の実践

コミュニティへの参画

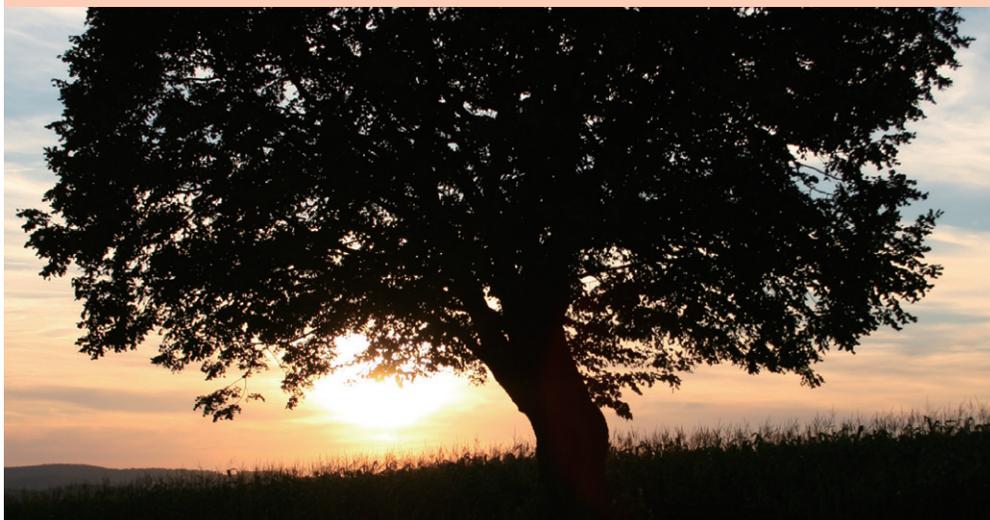
→ p.42~

地域とともに育てていただく

- ▶ コミュニティへの積極的な参画
- ▶ 地域社会との交流

組織統治 | よりオープンに、より厳正に

さまざまなリスクを想定したマネジメント体制のもと、健全な企業体質を構築して、企業責任を全うします。



基本的な考え方

コムシグループはグループのシナジー効果を最大限に活かし、高品質な技術・サービスを提供していくことで、ICTが寄与する「持続可能な社会」の実現に向けて企業努力を重ねていきます。企業努力の基本となる経営管理体制や内部統制システムを強化し、株主・投資家の皆様への積極的なIR活動の推進に努めるなど、コーポレート・ガバナンス強化のための施策に継続して取り組んでいきます。

公平かつ透明性のあるIR活動を推進

○ コーポレート・ガバナンス コムシホールディングス

ガバナンス体制

コムシホールディングス（以下当社）では、監査役設置会社制度を採用しています。

経営戦略に関する最高意思決定機関である取締役会は、当社事業に精通する取締役と独立した立場で経営監視を行う社外取締役で構成され、経営効率を高めるとともに、法的権限を強化された社外監査役による監査機能の充実を図ることにより、経営の健全性の維持強化に努めています。取締役会は12名の全取締役により構成され、取締役会規則に基づき定例取締役会と必要に応じて臨時取締役会を開催しており、法令で定められた事項および経営に関する重要事項について意思決定を行っています。取締役会の決定に基づく業務執行については、四半期ごとに担当取締役が取締役会に報告しています。社外監査役を含む監査役5名は取締役会に出席し、業務執行上の課題について意見を述べるとともに、取締役の業務執行を監視しています。社外取締役を除く取締役および常勤監査役で構成されている経営会議は原則月1回開催され、業務執行の効率化を高めるため、重要な意思決定事項について審議および決議を行います。経営会議には必要に応じて各組織長等がオブザーバーとして出席し、意思決定内容を的確に把握できるようにしています。また、各取締役の指揮のもと、担当業務別に執行会議を開催し、効率的な業務運営を行っています。

内部統制システムの整備

当社は会社法に基づき、取締役会が決議した「内部統制システム構築の基本方針」を踏まえ、内部統制システムを構築・推進しています。また、金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制」については、内部統制室を設置して財務報告のさらなる適正化に努めるとともに、継続的に内部統制を運用する体制を確立しています。

コムシスグループ役員研修会

2012年7月にコムシスグループ新任役員研修会を開催しました。

本研修会は、グループ各社の新任役員を対象として毎年継続して実施しています。

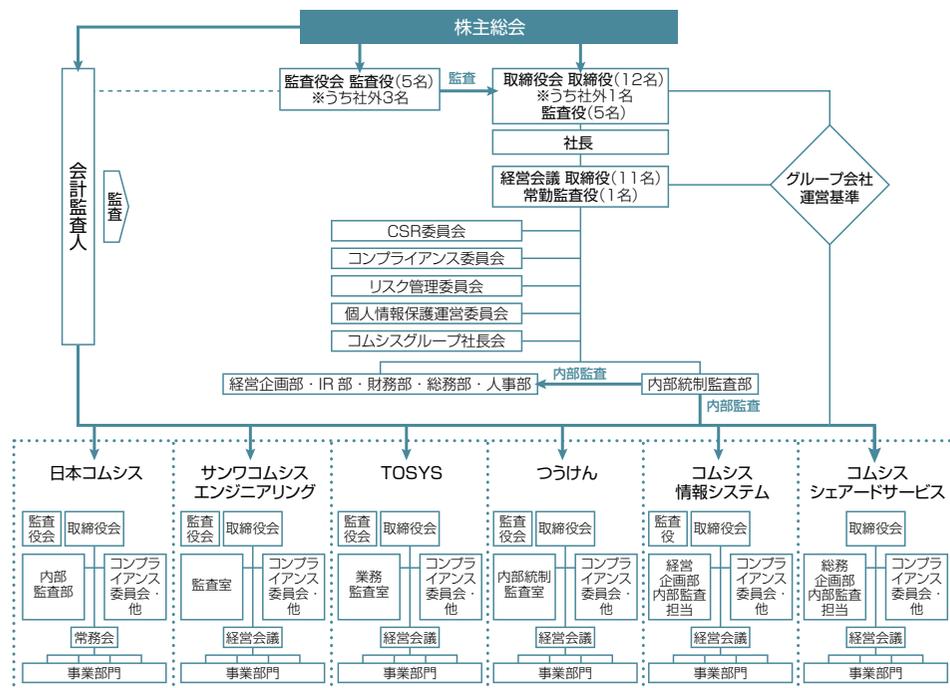


コムシスグループ新任役員研修会

弁護士、公認会計士を講師に迎え、「取締役・監査役職務と責任」および「役員が知っておくべき会計」についての講演を受け、グループのガバナンスの強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制 (2013年9月1日現在)

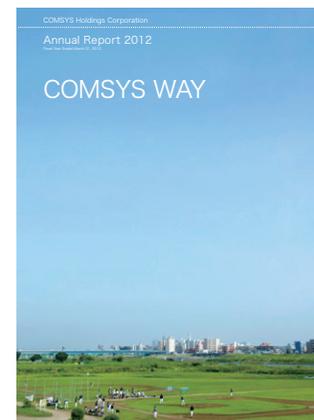
コムシスグループの業務執行体制、経営監視および内部統制を図式化するとおむね下図のとおりとなります。



IR情報の適正・適切な開示

タイムリーな情報開示を実施 コムシスホールディングス

コムシスホールディングスでは、株主・投資家の皆様に対して透明性の高い情報開示を行っています。Webサイトでは、IRライブラリー、IRスケジュール、財務情報、月次情報などのIRに不可欠な情報をタイムリーに更新しているほか、半期ごとに社長メッセージやトピックスなどを掲載しています。IRライブラリーでは、「決算短信」「有価証券報告書」「事業報告書」「アニュアルレポート」などの各種資料のPDFファイルを、いつでも自由にダウンロードしてご覧いただくことが可能となっています。また、お問い合わせの多い質問にはFAQコーナーで一括してお答えするなど、投資家の皆様がお求めになる情報を分かりやすく開示することに努めています。



Annual Report 2012



コムシスだより (期末)

開かれた株主総会の開催

第9回定時株主総会を開催 コムシスホールディングス

2012年6月28日、東京・品川区のコムシスホールディングス本社ビルにて「第9回定時株主総会」を開催しました。より多くの株主の皆様が、株主総会における議案を十分に審議し、出席していただけるように、株主総会の3週間前に招集通知を発送しています。また、この株主総会での決議結果についても、ホームページに掲載して公開しています。

決算説明会の開催

年2回の決算説明会を開催 コムシスホールディングス

機関投資家の皆様に向けて、コムシスホールディングスの経営方針や財務状況を理解していただけるよう、毎年2回、5月と11月に決算説明会を開催しています。

2012年度の決算説明会では、いずれも約60名のアナリストや機関投資家の皆様にご参加いただきました。



決算説明会で質疑応答をする高島社長

事業継続

BCP（事業継続計画）に関する取り組み

BCPの策定 つうけん

つうけんでは、東日本大震災の教訓を踏まえ、2012年7月にBCP（事業継続計画）を策定しました。

大地震など自然災害をはじめとする非常事態の発生に対して、従業員とその家族の安全確認はもとより、各事業所やシステムを速やかに保全し、重要業務の保守、およびNTT様等お客様のサービスや事業を早期に再開するための支援により、被災地の復旧に努め、お客様からの信頼の維持・向上を図ることを目的としています。

また、大規模災害の発生時の通信確保として、衛星携帯電話を本社ビルと旭川支店に設置し、非常用物資（食料、水、毛布、暖房用灯油ストーブなど）を本社ビルに常備しました。



非常用物資

人権 | 相手を尊重し、信頼を築く

最も大切な人権を尊重し、多様な価値観を認め合う職場づくりを目指しています。



基本的な考え方

コムシスグループはすべての事業活動における人権と個性の尊重を基本原則として定め、社員一人ひとりの多様な価値観を認め合い、啓発活動を通して『性別・年齢・人権・出身・宗教・障がいの有無』などに関わる差別的な言動や、暴力、セクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどの人格を無視した言動を行わないことを明示し、一人ひとりの人権を認め合う職場づくりを目指しています。

人権の尊重

○ 人権の尊重に関する取り組み

人権教育 コムシスグループ

コムシスグループでは基本的人権を尊重し、人種、宗教、信条、国籍、性別、身体障がい、年齢等を理由として、業務を進める上で差別をしないことを基本倫理としています。

また、人権に対する意識を社員に浸透させるため、階層別研修などで人権教育に取り組んでいます。

ハラスメント対策 コムシスグループ

コムシスグループでは健全な職場環境を実現するため、パワハラやセクハラに対する研修を実施しています。また、相談窓口を設置し、早期発見と相談者の対応を行っています。

「悩み110番相談窓口」の設置 日本コムシス

日本コムシスの「悩み110番相談窓口」では、仕事や職場に関する相談を受け付けています。相談者のプライバシーを厳重に保護し、相談窓口の担当者以外には非公開として利用者が不当な扱いを受けないよう配慮しています。

消費者課題 | お客様目線で企業競争力アップ

「コムシスブランドの品質」の維持・向上を目指しています。



基本的な考え方

サプライチェーン全体を通じて品質の維持・向上を図り、お客様満足の向上と、既施工物件や製品に関する安全性を確保するためのマネジメント体制を構築します。さらに、協力会社と一体となり、安心・安全で質の高い「社会基盤を支えるコムシスブランドの品質」を提供し続けます。

また、ステークホルダーとしてのお客様満足の向上に向けて、さまざまな取り組みを継続していきます。

品質へのこだわり

重点課題

品質保証の基盤としての品質マネジメントシステム

品質マネジメントシステム “ISO9001” コムシスグループ

「お客様に信頼され、21世紀に向けての積極的な事業展開に寄与し、豊かな高度情報化社会の発展に貢献する」ことを目的として、日本コムシスの海外本部、総合システム本部、本社NTT部門の3本部が1997年、最初に「ISO9001」の認証を取得しました。

その後、日本コムシス全社全部門、サンコム、TOSYS、つうけん、CJS各社が品質マネジメントシステム「ISO9001」を認証取得しました。品質マネジメントシステムの継続的改善に向けPDCA（Plan→Do→Check→Act）サイクルを基本に、システムの効果的な運用、お客様要求事項および法令・規制要求事項への適合の保証を通して、お客様満足の向上を目指しています。

日本コムシスにおいては、PDCAサイクルのP（計画）は、ISO「品質方針」に基づいて安全品質管理本部が作成した「年度品質目標・計画表」により活動を展開しています。品質目標は設計不備率、写真検査欠点強度率、施工成績点等の具体的数値を「品質管理指標」として設定しています。D（実行）においては、施工実施、班長認定、写真検査等の標準化された業務を文書化した手順に従い実施します。これらの実施状況はC（チェック）である内部監査において確認し、内部監査のマンネリ・形骸化を打破するために、セルフチェックによる課題の抽出、監査チェックシートの見直し等、適合性から有効性に着目した内部監査に変更し活性化を図っています。内部監査、セルフチェック、外部審査等のC（チェック）の結果・分析をマネジメントレビューやISO推進者会議等によりA（施策）に展開し、継続的改善とシステムの有効性向上を目指しています。



上) 登録証附属書
下) 登録証

ISO9001取得状況 (2013年3月末現在)

	取得年月
日本コムシス	1997年12月
サンコム	1998年 5月
TOSYS	1999年 3月
つうけん	1998年 9月
CJS	1997年12月

安全品質向上のための改善活動

改善活動への取り組み **日本コムシス**

日本コムシスでは、現場における改善活動を進めており、良い提案を広く社内を展開することで業務改善効果を上げることを目的としています。経営層が掲げる改革施策と現場の改善活動が両輪となることで、強い現場を作り、企業競争力の向上を目指します。

メモ提案 **日本コムシス**

メモ提案とは、現場の社員が自分の職場を良くするために仕事のやり方に創意工夫をし、その結果を個人が提案するもので、40年以上続いている社内制度です。メモ提案は1年中受け付けており、現在では協力会社も含めて取り組んでいます。

2013年7月からは、これまでに集まった約30,000件の提案に、より良いアイデアを加えて提案する「まねっこ提案制度」を開始しました。他の社員が出したアイデアに、各現場での創意工夫をプラスして提案することで、さらに良いやり方を模索していこうというものです。また、各提案にコメントを入れる仕組みを導入し、普段は直接顔を合わせる事のない現場社員の意見を集めることが可能になりました。

QC (Quality Control) 活動 **日本コムシス**

日本コムシスでは、チームを組んで問題意識を持ち、現場でできる範囲の中からさまざまな提案や仕組みづくりを実践し、効果が上がった事例を広く社内を展開して付加価値の最大化を図るものとして、「QC (Quality Control) 活動」も実施しています。

以前は、年に一度のコムシス全国改善活動発表会に向けて、QC活動に取り組んでいるという意識がありましたが、発表の有無に関わらず継続して内容を検証してほしいという思いから、2012年からは上位3チームに継続してその取り組みの効果を報告してもらう制度を設けました。また、TV会議での配信を開始し

たことで、遠隔地など会場に足を運べない社員でも情報を共有することが可能になりました。

現在、現場だけでなく管理部門からもさまざまな提案が出されるようになりました。

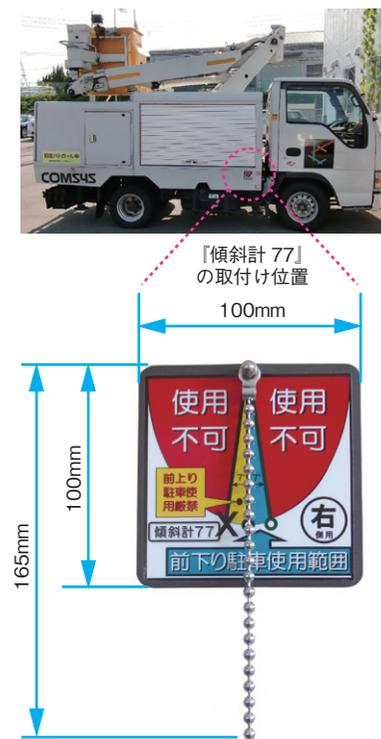
さらに、社員から出た良いアイデアは事業部だけで終わらせるのではなく、社内での情報発信やWebでの公開、試作品の配布などを行い、水平展開を目指しています。また、協力会社を含め、社員全員が取り組むことで提案の質と量の向上を目指し、現場の業務改善につなげていきます。

QC活動から実用化されたバケット車用「傾斜計77」 **日本コムシス**

バケット車の前上がり駐車による車両のズリ落ちを咄嗟に身体で受け止めようとする行為により、毎年のように尊い命が失われる事故が起きています。

日本コムシスでは、災害ゼロを目指し、この「前上がり駐車」をしないよう注意喚起するものとして、傾斜がひと目で分かる「傾斜計77」を制作しました。

「傾斜計77」は、日本コムシスの関東中支店社員の考案により生まれたものです。従来の水準器式傾斜計では傾斜角限度である7度以内かどうか正確な判断ができず、また、市販の傾斜計も高価であるため、栃木支店管内の全車両120台（2011年12月現在）への導入が困難だったことから、「信頼性のある、見やすい、安い傾斜計」を作ることを目的に



考案されました。チェーンが重力により常に鉛直方向を示すこと、7度の駐車使用可能傾斜角範囲を表示版に貼り付けたことで、ひと目で車両の傾斜角度を目視できるようになりました。

制作後は、先に導入した現場からの評判が良いだけでなく、他社からも引き合いがあり、量産化を目指しました。2012年10月までに、日本コムシス関東中支店の管内事業所の全バケット車と、NTT東日本ー栃木様、ワコー栃木様、ミライト栃木様など、各社のバケット車にも取り付けられ、全875個が導入されました。その後、全コムシス管内、東西のNTT様、全国の通建各社様からの注文が相次ぎ、2013年7月末の時点で6,400個の導入実績となっています。さらに現在は、電力工事用にも引き合いが来ています。

安価で良質な製品を広く普及させることにより、全国的なバケット車の前上がり駐車による人身事故を減らしたいとの思いから、また、継続的に安定的なライセンス収入が見込めることから、2013年1月には意匠登録を行いました。

今後、バケット車製造メーカー、電力会社の工事部門、CATV工事会社などバケット車を使用しているさまざまな業界で利用されることも期待され、販売数が拡大し、普及がさらに広がるものと考えています。

●現場の声

平坦に見える道路でも上り坂や下り坂があり、バケット車に標準装備されていた水準器式の傾斜計では、傾斜角限度の7度以内かどうかの判断が困難でした。「傾斜計77」はひと目で駐車可否の判断ができるので、大変便利です。また、運転席から降りて敷板を設置する際に、必ず目に入る位置にあるため、確認漏れがありません。日々の確認で前上がり駐車をなくし、事故のない、安全な現場を維持していきます。



日本コムシス
栃木支店長 遠藤 和彦

開発パートナーシップ制度の導入 つうけん

つうけんでは、VE提案活動業務のさらなる活性化と現場作業に直結する改善提案の掘り起こしを目的として、各支店に開発パートナー担当者を設置しました。

2012年度は開発パートナーから26件の応募があり、そのうち7件を技術改善提案、VE提案へ上申または2013年度開発計画へ継続しました。

開発パートナーとは、開発業務および現場における問題解決能力・改善力の向上を目指すため、社員およびグループ会社社員の社内改善提案の窓口や促進喚起を図る役割を担う担当者のことです。具体的には、支店内の技術提案活動の促進へ向けた喚起活動、提案に対しての現状の問題点や効果等の調査、具体的な試作品作成等に向けた調整や実態調査、試作品トライアル実施と結果のとりまとめなどを実施しています。



中間接続作業台の開発



電柱仮置作業台の開発

品質向上のための技術開発

IT武装化Darwin（ダーウィン） 日本コムシス

日本コムシスのドコモ事業本部では、着工から竣工に至る業務の流れを一元的に管理できる仕組みを実現するため、ITプラットフォーム「Darwin」を設計し、運用しています。

以前は、営業・折衝・コンサル・設計・施工管理の業務プロセスごとに個別の管理システムが運用されており、サプライチェーン全体を把握する管理システムの構築と、プロセス間のスムーズな情報共有と連携が求められていました。

そのような中、2010年に折衝・コンサル業務部分のシステムの改善・標準化に着手し、常時3,000件に上る案件情報を一元的に管理・蓄積して利用できる、新しいIT基盤づくりをスタートさせました。

2012年2月には、STEP1として「設計・施工」部分のシステム運用を開始し、同年7月にはSTEP2として「折衝・コンサル」部分の運用を開始しました。

このIT武装化、施工情報の一元管理によって、折衝・コンサルのスピードアップによるインセンティブ発注の増加、協力会社を含めた稼働の可視化と効率化、社員の業務生産性向上の効果が期待されています。「Darwin」の活用により、さらなる品質の向上とお客様満足の向上を目指していきます。

●利用者のコメント

「図面は紙」「進捗管理表はエクセル」「連絡は電話・メール」。この3つが工事の中で大きなウェイトを占めていましたが、Darwinが導入されたことでペーパーレス化、システム進捗管理、ID単位での情報配信がなされ、「探す」から「検索する」に変わり、作業効率が大幅に上がっています。折衝～施工も紐付・グルーピング化されたことで、工事という一連の流れを大きなひとつの塊として捉え、遅滞・遅延のないスムーズな工事を完遂しています。



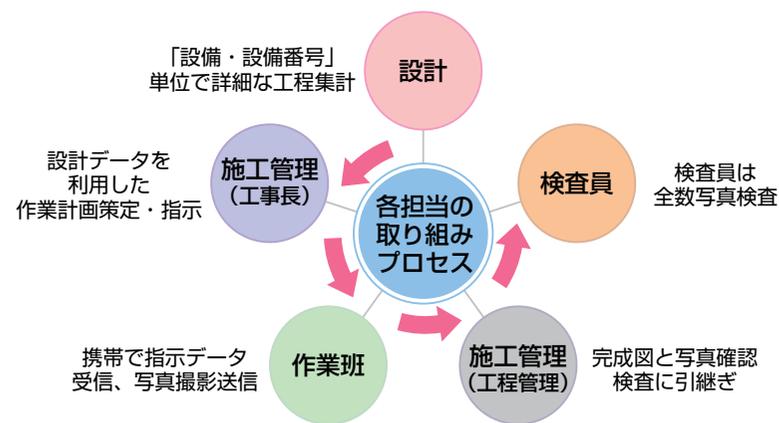
日本コムシス ドコモ事業本部
モバイルエンジニアリング部
工事推進部門 技術長
君塚 現

「全数写真検査」でさらなる品質向上 日本コムシス つうけん

つうけんの写真検査システムは、設計、施工、施工管理、施工班の役割を明確にし、業務をCSM的〈供給連鎖管理〉に管理する「プロセス管理システム」に「写真検査システム」を連動させたシステムとなっています。

設計で設備番号単位に工程集計した設計データを、施工管理が施工班の割付・施工指示に活用しています。作業班は撮影指示情報（場所、撮影パターン等）を受信し、指示情報を基に撮影することで撮影漏れがなく、撮影後の編集稼働も一切ありません。また、撮影後の写真を施工管理が確認することで施工品質の向上、完成図の精度向上につながっています。写真検査に関わる現場からの質問、意見提起、改善提案などの回答、写真検査の写真撮影方法など、社内システムに「写真検査フォーラム」を開設し、社内およびつうけんグループ関係者全員が閲覧できるよう情報共有を図っています。

また日本コムシスでも、作業効率と品質向上を目的とし、「全数写真検査」を実施しています。



プロセス管理システムと写真検査システムの連動

品質向上のためのスキルアップ

第50回技能五輪全国大会において銀賞を受賞 **TOSYS**

2012年10月に開催された第50回技能五輪全国大会に、TOSYSから2名が参加し、江口選手が「情報ネットワーク施工」職種で銀賞を受賞。日々鍛錬してきた優れた技術・品質が実を結びました。唯一の女性として大会に参加した清野選手は、すべての工程を完了することができました。また、選手を支えるために多くの指導者が参画し、日頃から技術力向上に向けて取り組んでいます。



左：閉会式で。左が清野選手、右が江口選手
中央、右：情報ネットワーク施工競技の様子

技能競技大会を通じた作業スキルの向上 **コムシスグループ**

コムシスグループ各社では、さまざまな技能競技大会を通じて人材の育成と品質の向上に努めています。

各競技大会では技能者の施工技術や技能レベルを競い合うだけでなく、情報通信工事技術の向上や日々進化する材料・工法を、全社へ浸透・展開させることを目的に実施しています。

各エリアの技術者を競わせ切磋琢磨させることにより、技術者のモチベーションを高め、グループの技術力強化と向上、技術交流を図っています。



つうけん「技能競技大会」の様子

技能コンテストにおいて最優秀賞を受賞 **日本コムシス**

2012年11月7日に開催された「第7回技能コンテスト」(NTT東日本一栃木主催)において、日本コムシスの社員が5種目中2種目で第1位となり、圧倒的な強さで連覇を果たしました。



日本コムシスが「第7回技能コンテスト」ビジネスホン設定工事、写真検査品質チェックで連覇

プロジェクト・マネジメント・オフィスで品質を向上 **CJS**

CJSでは、2012年9月に組織改革を行い、経営企画部配下の全社PMO(プロジェクト・マネジメント・オフィス)を社長直轄組織の「プロジェクトマネジメント推進室」としました。

新組織では、マネジメント強化を目的とした現場点検の実施、プロジェクトリーダー向けのスキルアップ研修の実施、ルール整備を目的としたプロジェクト管理プロセス要領、開発要領の策定を通じて、プロジェクト管理レベルの向上と収支改善に努めています。

資格取得の推進 **CJS**

CJSでは、高度で高品質なソフトウェア開発能力の向上、新技術への対応を常に追求し続けられるよう、社員の資格取得の推進に積極的に取り組んでいます。

2012年度においても、プロジェクトマネジメントに関する国際資格「PMP(Project Management Professional)」を新たに7名が取得するなど、主要資格を116名が取得しました。

●2012年度 主な資格取得者数

	新規取得	累計
PMP (Project Management Professional)	7	74
JAVA、C言語プログラミング能力認定	34	48
Microsoft認定資格 (MCTS)	17	177
Oracle認定資格	15	201
Intra-mart認定資格	11	53
情報処理技術者	32	421

お客様満足度向上に向けた取り組み

○ お客様とのコミュニケーション

各種フォーラムへの出展

● つくばフォーラム2012 日本コムシス サンコム TOSYS つうけん

2012年10月18～19日の2日間にわたり、NTTアクセスサービスシステム研究所・つくば国際会議場において「つくばフォーラム2012」が開催されました。

日本コムシスでは、NTT事業本部アクセステクニカルセンタを事務局に、第4会場（屋外ブース）にて「エア掘削装置及び粘性土掘削工具」「CGH・SH連結具」等、さまざまなデモンストレーションや展示を行いました。つうけんでは「電柱の現場仮置き作業台」など計8品目を出展しました。

また、19日には7月に開催された「光通信工事技能競技会」の優勝者による施工デモンストレーションが開催され、「光サービス開通施工競技」の優勝者である田中佳織さんが日本コムシスを代表してデモンストレーションを行いました。



● 西日本ICTフォーラム2012 日本コムシス

2012年9月12～13日の2日間にわたり、マイドームおおさかで「西日本ICTフォーラム2012」が開催されました。参加企業の相互交流促進を目的とするこのイベントに、日本コムシスは災害緊急時の通信手段確保として、スマートフォンでのインターネット電話を、ブロードバンド衛星回線を利用したオールインワンパッケージ「スマートサテライト」の交換機に接続することで災害時に活用できる「太陽光発電&災害用通信パッケージ」などを出展しました。フォーラムは盛況で、2日間で272名が来場されました。



CSマイスター制度の設立 つうけん

つうけんでは、2009年度からお客様満足度の向上を目指し、独自にCS調査を実施しています。実施内容はお客様宅内での作業後、アンケートはがきを配布し、お客様より返信していただいた内容をデータベース化（数値化）して、CS状況の評価や優良事例等を展開することにより、お客様満足度の向上を図っています。2010年度からは半期ごとに表彰制度を設け、さらなるCS活動の活性化を進めています。



また、2012年6月からはCS優秀者への社内資格として「CSマイスター制度（Gold認定／Silver認定）」を設立し、これまでにGold認定12名、Silver認定45名の計57名に認定書と認定バッジを授与。認定者は他の模範となって第一線で活躍しています。

環境

地球環境課題の解決に向けて

事業活動や社会貢献活動を通して環境負荷低減を目指した、さまざまな取り組みを行っています。



基本的な考え方

コムシスグループにおいては、太陽光発電システムなどの環境配慮技術を利用した事例が増加しており、情報通信と並ぶ重要な社会インフラとして、また、「事業を通じた企業価値の創出」が可能となる新たな分野として、事業活動を通じた省エネや温室効果ガスの低減を目指す取り組みに注力しています。私たちは地球市民の一人として、新たなビジネスの可能性という観点も常に持ち合わせながら、「コムシスの森づくり」など生物多様性の維持といった課題も含めた地球環境問題について、積極的に関わっていきたくと考えています。

温室効果ガスの削減に向けた取り組み

太陽光発電システム導入の取り組み

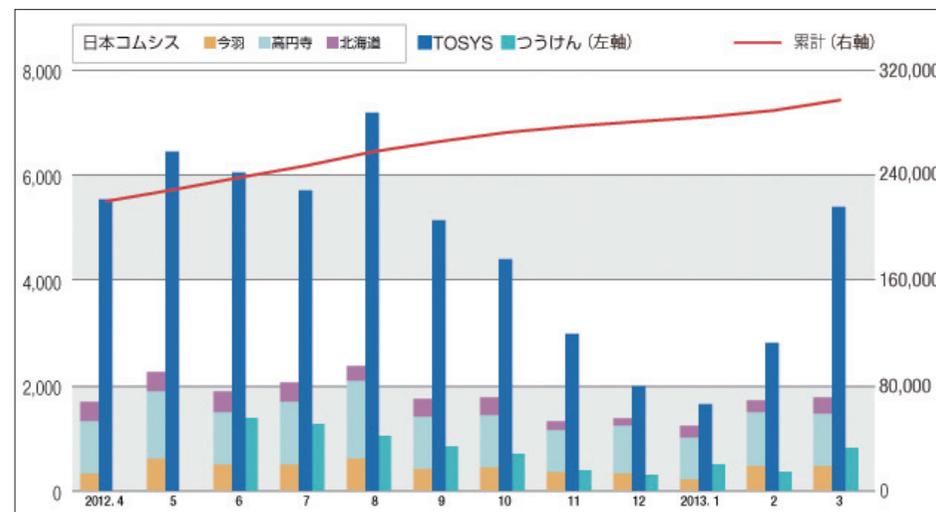
自社ビルに太陽光発電システムを導入 日本コムシス TOSYS つうけん

オフィスでも実現可能な環境保全の取り組みとして、コムシスグループの拠点に太陽光発電システムを導入しています。日本コムシスでは、コムシス高円寺ビル（最大出力10.8kW）、コムシス大宮ビル（最大出力5kW）およびコムシス北海道ビル（最大出力3.4kW）にも太陽光発電システムを導入し、得られたエネルギーをオフィスで利用しています。

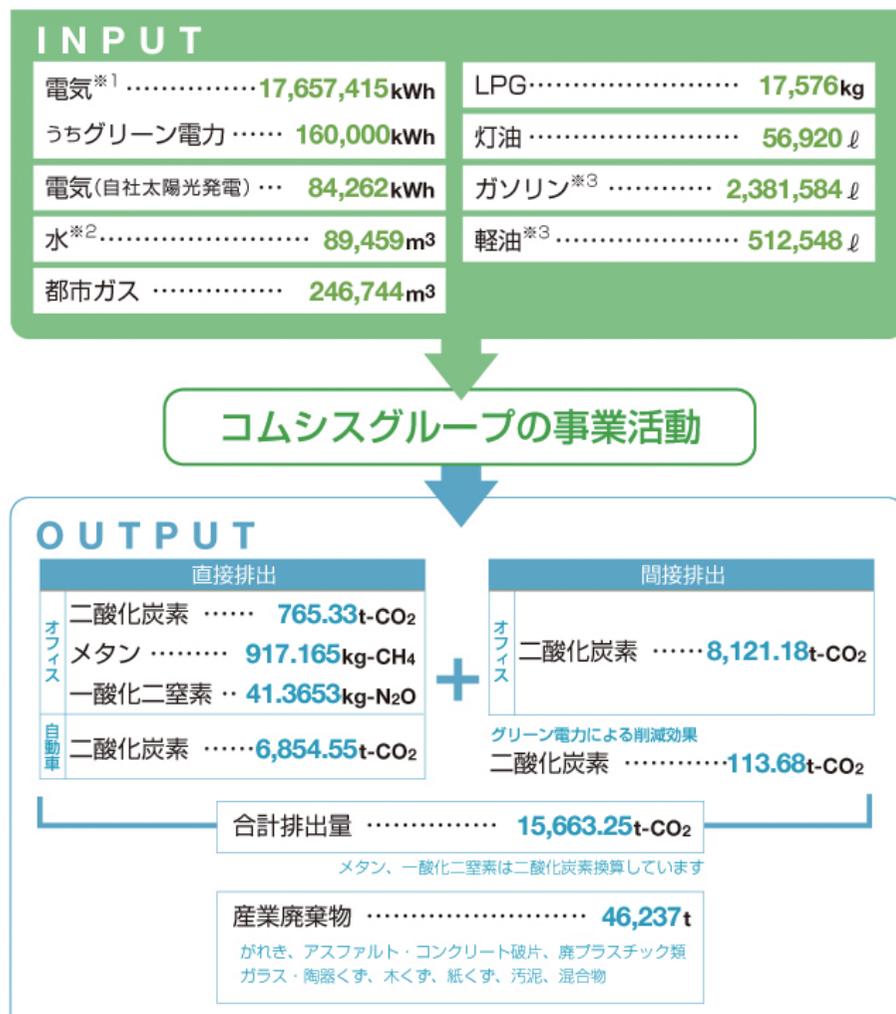


また、TOSYSでは本社ビル屋上に最大出力50kW、つうけんでは厚別ビルに最大出力10kWの太陽光発電システムをそれぞれ導入しています。2012年度はコムシスグループで約39.6t-CO₂の二酸化炭素削減効果を実現しました。

発電量の推移(kWh)



コムシスグループのマテリアルバランス コムシスグループ



対象：コムシスグループ各事業会社の本社ビル、支店ビル、一部のTS
 ※ 1：個別メーターがないフロアでは面積按分値を使用しています
 ※ 2：入居ビル賃料に使用量が含まれる場合は対象外としています
 ※ 3：各社のリース車両による燃料使用量を対象としています

中水サービスの稼働を開始 日本コムシス

日本コムシスで新規ビジネスの一環として取り組んできた「中水サービス（バイオ水処理）」が、2012年10月に本格的に稼働を開始しました。

中水とは、雨水や排水を再生処理（バイオ水処理）して、人と直に接触しない水洗トイレや散水に利用する上水と下水の間にある水のリサイクルシステムで、環境対策と水光熱費などのコスト削減を同時に実現するシステムです。

今回システムを導入したビルでは、水処理システムや遠隔監視制御システムなどを設置し、厨房排水を中水化して再利用しています。汚泥に含有する微生物の力で排水に含まれる有機物を分離し、上澄水のろ過工程を経て、残留塩素濃度を監視しながらトイレの洗浄水として利用しています。薬品を使わないため余剰汚泥は脱水ケーキ状にし、肥料として使うことが可能です。

水の使用量削減とともに、水質保全などにも貢献でき、環境にやさしい仕組みとなっています。また、水処理の各工程の状況は常にネットワークを通じて遠隔監視され、モニタリングやデータ抽出も簡単に行うことができます。

導入したビルでは、6ヵ月間で水使用量を23,840m³、料金にして1,786万円、CO₂排出を7,751kgを削減。設備ランニングコストを40%削減でき、サービス導入の効果がはっきりと表れています。

今後は新規顧客を開拓し、環境保全とコスト削減を同時に実現できる当サービスの積極的な事業展開を図っていきます。

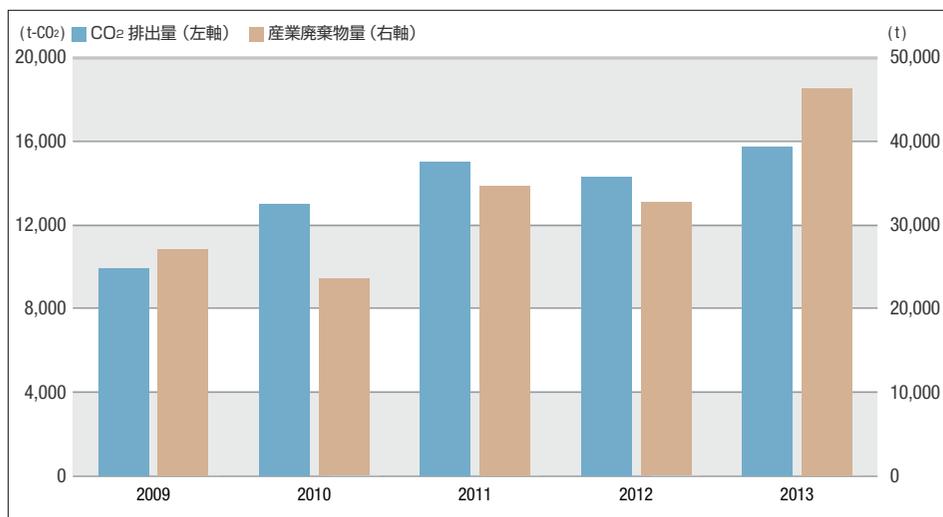
◎ 温室効果ガスの削減に向けた取り組み コムシスグループ

CO₂の削減には太陽光発電システムの構築といった環境対応型の事業や製品を通じた方法もありますが、コムシスグループでは ISO14001を活用した環境マネジメントシステムを運用しながら、CO₂の削減をはじめとする環境負荷の低減にも取り組んでいます。

コムシスグループの事業は「エンジニアリング事業」と「ICTソリューション」に分けられますが、業務の徹底的な効率化を図る全社的な「カイゼン」の取り組みを通じて、CO₂排出量の継続的な削減が図られています。作業現場では、工事作業車等によるエコドライブの徹底や省エネ効果の高い作業機材の使用を通じて、また、各オフィス・作業所では節電対策等（太陽光発電システムの導入を含む）を通じて削減を図っています。

一方、社員がボランティア参加して植林を行う「コムシスの森づくり」などを通じ、生物多様性を含む地球環境の保全に関する理解を深める活動なども続けています。

グループ全体のCO₂排出量と産業廃棄物量の推移



◎ オフィスその他における取り組み

タブレット端末によるペーパーレス化 日本コムシス サンコム CJS CSS

日本コムシス、サンコム、CJS、CSSでは、タブレット端末を利用した高セキュリティの会議システムを社内で構築し、自社の経営会議などで運用しています。会議体改革とペーパーレス化を実現した新しいワークスタイルでさらなる効率化とオフィスの省資源化を目指しています。

消費電力の「見える化」 サンコム つうけん

サンコムでは、本社（高円寺ビル）に電力量デマンド監視装置を導入しています。各階にモニターを設置して消費電力を「見える化」し、制限電力量を超えると空調設備が自動的に出力を制御する仕組みとなっています。

つうけんでも同装置を本社ビルに設置し、設定電力をオーバーした時にアラーム警告が作動するなど、最大需要電力量の監視・抑制を図っています。



「見える化」による消費電力表示 (つうけん)

○ 節電への取り組み コムシスグループ

コムシスグループでは、グループ各所で節電に取り組んでいます。特に、以下の2社では次のような取り組みを実施しています。

TOSYSでは、東日本大震災以降さまざまな節電施策を展開しています。

2011年度には、事務室のプルスイッチ化による個々の照明の個別管理を行いました。2012年度は蛍光管をLEDに変更しさらなる節電を推進しました。また、一部オフィスについては屋外水銀灯からLED屋外灯への変更も実施しました。

節電効果としては、従来の蛍光管40WからLED22Wに、水銀灯400WからLED168Wに変更することで、消費電力を約半分にする削減効果があります。具体的には、次年度以降に効果が見えることとなります。このLED照明の設置にあたっては、TOSYS電設・ITビジネス事業部LED事業部と電設事業部において器機制作・施工を行っています。

また、つうけんでは、国の節電対策として2010年度比7%の消費電力削減目標に対し、事務所照明の40%取り外し、自動販売機の夜間帯の電源停止、エレベーター利用の自粛、トイレハンドドライヤーの停止などを実施した結果、2012年7月～9月の消費電力量は、2010年度比14.7%（27,607kWh）削減できました。



グリーン電力の購入 日本コムシス

日本コムシスは、日本自然エネルギー株式会社が提供する「グリーン電力証書システム※」を採用しています。2012年度は本社において年間合計16万kWhのグリーン電力を購入しました。これは本社の年間電力使用量の約8.89%に相当しています。

※グリーン電力証書システム：間接的なCO₂削減効果を持つ自然エネルギーの「環境付加価値」を、自然エネルギー発電事業者が第三者機関の認証により「グリーン電力証書」という形で発行。証書を購入した企業の電力使用量のうちの購入相当量が自然エネルギーによるものとみなされ、その費用は自然エネルギーの普及に役立てられます。



○ 資源の有効活用に関する取り組み

工事現場における取り組み

リサイクル用品の活用 日本コムシス

日本コムシスでは、ISO14001の活動プログラムのひとつとして、所内系全現場で工事残材・事務所内廃棄物を分別処理することにより、リサイクル資源の保護に貢献しています。

廃棄物の削減

本社ビルでリサイクル活動を推進 日本コムシス

日本コムシスでは、本社ビルにおける分別ゴミのリサイクル処理に積極的に取り組んでいます。加えて、同ビルの区分所有権を有するフロアでは、入居する企業にも協力を求め、本社ビル全体で積極的なリサイクル活動を実施し、2012年度の本社ビルにおけるリサイクル処理量は111,638.6kg、リサイクル率は91.0%に達しました。

グリーン購入の推進 日本コムシス CJS

日本コムシス、CJSでは、環境への負荷を考慮して事務消耗品におけるグリーン購入を推進しています。

グリーン購入率

	2011年度	2012年度
日本コムシス	86.8%	86.0%
CJS	82.9%	90.3%

環境保全について考える取り組み

環境保護と生物多様性の維持に関する取り組み

緑の募金を実施 日本コムシス サンコム CJS CSS

コムシス森林サポーターによる「コムシスの森林づくり」活動の一環として、年に1回「緑の基金」を実施しています。社員からの募金とそれに伴うマッチングギフトを合わせて1,300,000円が集まり、各種活動に役立てられています。

コムシスグループの森づくり コムシスグループ

コムシスグループでは、環境保全および地域貢献活動の一環として、森づくりの活動を行っています。

日本コムシス、サンコム、CJS、CSSでは、コムシス森林サポーターとしての活動を実施しています。2012年度は、毛呂山町大谷木字鶯谷地内などでの6.6ヘクタールにおよぶ枝打ちや間伐等による森林保全活動の実績により、同制度において68.0t-CO₂/年のCO₂吸収効果が認められ、日本コムシスとサンコムに対し、埼玉県知事より「埼玉県森林CO₂吸収量認定書」を交付していただきました。68.0t-CO₂/年のCO₂吸収量は、212人分の呼吸による年間CO₂排出量に相当します。

TOSYSでは、2012年10月20日に毎年恒例となっている「TOSYSの森」森林整備（歩道の整備、倒木の処理等）を行いました。当日は、社長をはじめとして新潟・長野県内から85名の社員が参加して、傷んでいた歩道の整備、倒木の処理をグループに分けて手際よく行いました。

つうけんでは「つうけんの森」活動を続けており、4年目となる2012年度は、10月30日に社員による補植活動を行いました。



「TOSYSの森」活動 2012年度CO₂吸収量認定書

コムシス森林サポーターの活動 日本コムシス サンコム CJS CSS

2012年9月に、栃木県日光市霧降高原「マックラ滝」付近の「杉の共有林」において、第7回「霧降協働の森づくり」の活動を開催しました。グループ社員、協力会社社員ならびに家族の方々を含め総勢116名が参加し、下草刈りおよび「クマ、シカ等による食害防護ネット」の取り付けを120本行いました。

また、「栃木県みんなの森づくり」活動として、グリーンスタッフ（指導員）や森林ボランティアとして森林保護活動に参加しています。



「緑の地球ネットワーク」活動に関する賛助会員 CSS

CSSでは、中国・黄土高原における緑化活動や環境問題に取り組んでいる非営利・非政府の民間団体「緑の地球ネットワーク」活動に対し、賛助会員として協賛しています。

労働慣行

働きがいのある職場環境を目指して

公正で働きがいのある企業を目指し、人材育成を進め、より良い職場環境づくりに努めています。



基本的な考え方

安全衛生や品質については、社員はもとより、工事子会社や協力会社の皆さんを含めた現場スタッフのスキルや仕事に対する意識、モチベーションの高さなどが大きく影響します。コムシスグループでは「現場の目線」を尊重し、密接なコミュニケーションを通じて管理体制の維持・強化を図る一方で、「人こそ宝」という考えから、資格取得および各種研修等の機会を提供するなど「人材」の育成にも注力し、福利厚生制度の拡充と併せて、働きがいのある職場環境の整備に努めています。

安心・安全な業務体制

重点課題

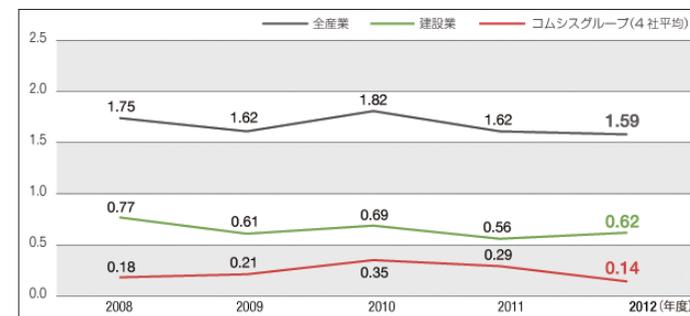
労働安全衛生マネジメントシステム コムシスグループ

事故によって尊い人命が奪われたり、ご家族を悲しませるようなことはもちろんのこと、事故を通して社会やお客様にご迷惑がかかるようなことは決してあってはならないことです。コムシスグループは、情報通信エンジニアリング業界のトップブランドとして労働安全衛生マネジメントシステムに則り、労働安全衛生に関する法令ならびに当社の安全衛生に関する規定を守り、全社員協力のもとに安全衛生の確保と水準の向上に継続的に努めています。

また、日本コムシスやサンコム、TOSYSでは、「OHSAS18001^{※1}」「COHSMS^{※2}」の認証登録を行い、安全憲章や安全方針を策定していますが、各社とも毎年、「事故撲滅」を最重要経営課題として掲げ、現場の工事などを担当する協力会社とともに、グループ全社を挙げて事故および労働災害の防止に取り組んでいます。

- ※1 OHSAS18001 (Occupational Health and Safety Management Systems) : PDCAサイクルによって組織が労働者および関係者の労働安全と衛生に関するリスクを最小限にし、労働災害を予防していくための労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格。第三者認証機関による認証取得を受けることができます。
- ※2 COHSMS(Construction Occupational Health and Safety Management System) : 厚生労働省の「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」に基づき、建設業労働災害防止協会が業界の実情を踏まえて作成した、PDCAサイクルを通して自発的に安全衛生水準の継続的向上を図るための建設業向け労働衛生マネジメントシステム。

労働災害発生度数率の推移 コムシスグループ



交通安全への取り組み

ドライブドクターの導入 日本コムシス

コムシスグループでは、「安全はすべてに優先し、安全は作り込むもの」との考えから、コムシスグループのすべての業務において「安全」を最も重視すべき取り組みであるとして、経営トップ層から現場スタッフまで一丸となり、日々の事業活動において常に意識して取り組んでいます。

日本コムシスでは、工事に伴う事故のみならず交通安全の意識向上に取り組んでおり、2011年度より「ドライブドクター」の導入を開始しました。ドライブドクターとは、通信機能やGPS機能を備えたドライブレコーダーで取得した運行情報を、NTTドコモ様の通信ネットワークを介して自動的に運用会社に転送し、運行情報を一元管理するシステムです。これにより、いつ、どこで、どのような危険イベントを起こしたかを個人ごとに集計し、日報や月報として運行情報の「見える化」が可能となりました。現在は、日本コムシスが所有する車両約1,000台でドライブドクターを導入しています。

導入前は、若手などを対象とした座学研修等で安全運転を指導してきましたが、ドライブドクターの導入により、個人、事業所ごとに定量的な安全評価と指導が可能となりました。加えて、ドライブドクターで得た事故映像を安全衛生協議会等で協力会社の社員にも公開し、コムシス・協力会社の社員・作業員の交通安全に対する意識変革に活用しています。実際に、現場の管理者や社員の意識も変化しつつあり、2012年4月と2013年4月で比較を行うと、急発進が37%減少、急減速が22%減少するなど、飛躍的に危険イベントの発生率が減少しています。

また、安全運転は企業の価値やイメージを守るだけでなく、急発進、急ブレーキの減少によるガソリン等の燃料費削減にも効果があることが期待されています。さらに、車両の稼働率を把握することで、車両の適正配備が

可能となりました。

本格運用から1年経過し、今後は個人の運転データの分析による特性から事故の未然防止、さらなるガソリン消費の削減等、次ステップに向けた取り組みを加速していきます。

●導入者の声

ドライブドクターを導入した当初は、走行中のアナウンスが気になる、乗車時に個人ID投入が面倒であるといった、多くのネガティブな声がありましたが、操作説明会、導入の主旨、目的等を説明し、かつ各事業部に導入責任者を選任し理解を求めました。最近では、事故映像がリアルに見え、事故の怖さを身近に感じるなどの意見から、ドライブドクターの活用例を各事業部で展開するまでになってきています。今後は事故および危険映像(インシデント)を積極的に公表していくことで、加害事故「ゼロ」と地球にやさしいEco運転を目指していきます。



日本コムシス
安全品質管理本部
安全品質管理部門 担当部長
上田 秀則

交通安全への取り組み 日本コムシス サンコム

コムシスグループでは、事業を遂行するために多くの自動車を利用しています。

日本コムシスでは、年に数回、最寄りの警察署・JAF・ホンダなどから講師をお招きし、事故事例を交えながらの交通安全講習会を開催。参加者は交通事故「ゼロ」への決意を新たにしています。

サンコムでは、グループで働く全社員の交通事故の撲滅を目的として、秋の全国交通安全運動に合わせて「サンコム安全運転ポスターコンクール」を開催。交通安全への願いを込めて、ご家族の皆様から多くの作品を募集しました。



労働災害・事故撲滅に向けた取り組み

フィールド監査室の取り組み つうけん

つうけんのフィールド監査室が行う現場の監査は「作業中を見る抜き打ち監査」を基本とし、各支店の班数に対して120%以上を目標に監査に取り組み、2012年度実績は830班となっています。「前回の監査で指摘があった班が改善されたか」「見ていない班、新しい班の安全に対する意識はどうか」「住宅地、交通量の少ない場所では、安全に対して手抜きをすることなく作業しているか」等を重点に監査しています。

監査は2名体制で、つうけん工事エリアを平均するようにハイブリッドカーで駆け巡っており、1台の走行距離は年間33,000kmを超えます。

不安全作業にはペナルティー制裁基準により、作業中止〈レッドカード〉、指摘事項〈イエローカード〉で制裁金を課しています。レッドカードでは3日間作業を停止し、つうけん安全実施法により、安全な作業方法の確認、類似事故の再発防止、意識改革、今後の対策を重点に特別教育を行っています。



安全巡視等の実施 日本コムシス サンコム TOSYS つうけん

人身・設備事故撲滅に向けて、コムシスグループ全体で各種取り組みを展開しています。現場で作業する社員等と社長の対話を重視したパトロールを行い、特に高所作業車の使用方法や作業内容について事故防止に向けた具体的な取り組みを確認することで、作業を行う社員一人ひとりの安全に対する意識の向上を図っています。



TOSYS現場を視察する三浦前社長

また、安全推進強化期間以外においても、トップ自ら定期的に安全パトロールを実施しています。

安全キャラバンの実施 日本コムシス

日本コムシスでは、西日本の非常事態宣言期間の取り組み施策として、「安全キャラバン」を実施しました。

高島前社長（現会長）が2012年9月に関西支店、10月に九州支店、伊東前副社長（現社長）が10月に中国支店、11月に北陸支店を訪れ、安全講話を行いました。また、協力会社が安全への取り組み施策を発表し、最後に安全宣言を行い「絶対に事故を起こさない」ことを誓いました。



高島前社長へ安全宣言を行う様子



安全大会の実施 コムシスグループ

「安全はすべてに優先する経営の課題事項であり、経営の要」という意識のもと、各社で安全大会を開催しました。労働安全に対する意識の向上を図るとともに、各社の安全品質向上に向けた改善の取り組み発表ならびに各事業部代表による安全決意表明を行い、最後に参加者全員による「安全唱和」で締めくくり、参加者全員が事故撲滅の決意を新たにしました。



日本コムシス全国安全大会



サンコム安全大会

また、脚立による事故防止の一環として、「脚立不安定体感」「飛来落下危険体験」など、実際に体感をすることで、事故の恐ろしさを感じ取ることができました。

今後もコムシスグループ一丸となり、事故撲滅に向けて安全品質の仕組み作りを行っていきます。

サンコムの安全に向けた活動 サンコム

サンコムでは、ヒヤリハット（HH）収集運動を実施しています。各現場での実例を「天使の贈りもの」と称した小冊子にし、事故の再発防止を目的に、痛みを伴った貴重な教訓を決して忘れてはいけないという思いを込めて、社員ならびに協力会社社員の全員に配布しています。



また、事故撲滅を目標とした「誓いのリストバンド」を配布しています。作業員へ事故防止への強い意識を持たせることを目的とする「赤」のリストバンドは、「まず確認、最後に確認」を定着させ、現場作業時に必ず実行することにより、確認不足や思い込みが要因のヒューマンエラーやヒヤリハットの発生を撲滅させることを目指します。また、「緑」のリストバンドは、緑十字の安全と安全作業へ突き進むことを意図しています。

「家族からの手紙」活動の推進 サンコム

サンコムでは、ご家族から勤務しているご主人やお父さんへ「無事に仕事から帰って」といった思いや愛情を手紙でいただき、作業員本人が「どんなに家族の方々に愛されているか」を自覚することで、「無事に作業を終え帰宅しなければならない」と心に刻んでもらう活動を行っています。2012年度は本活動をポスターにして、たくさんのご家族の思いが全従業員の心に残るものとなりました。



安全品質向上（～伝えるために～） つうけん

事故の発生要因の割合として、「基本動作が守られない」「ちょっとした気の緩み・近道行動」といったものが多くを占めています。つうけんでは事故防止に向けて、作業前の安全施工サイクル活動、事故速報周知・危険予知、安全パトロールによる指導を行っていますが、日々の中で作業員一人ひとりに“伝えるために”、関わる皆さんからの「声（言葉）・思い」をポケットティッシュに記載し配布、確実に伝える取り組みを実施しました。また、冬期にはホッカイロや入浴剤に貼付し、安全パトロールなどの際に現場作業の作業員に配布しました。

奥さんから一言：

おとうさん 「安全運転」で
らっしゃい。



鼠子さんから一言：

ハハ「気をつけてね！



社長の声：

永井です、ちょっとした近道が
大きな回り道になります、仲間
も一緒に！ 基本が大切です。



〇〇班長から：

回線切り替え前の回線確認OKか！
切り替え後の確認戻
線は大丈夫か、局内班も。

安全衛生教育の実施

安全研修の実施 日本コムシス サンコム

日本コムシスとサンコムの各事業所では現場第一線で働く従業員が絶対に事故を起こさないという強い意識のもと、高所作業車の運転、操作の教育や現場作業における危険予知の定着などを目的するための講習を実施しています。



高所作業車実務教育

AEDの設置と講習会を実施 コムシスグループ

コムシスグループでは、品川ビル、関西支店、サンコム本社ビル、つうけん関連企業など、各拠点にAEDを設置し、講習会を実施しています。

CSSとCJSでは、高輪消防署員の指導のもと、品川ビルの大会議室において、社員が合同でAEDを使った救命講習会を実施しました。

内容は実技主体で、人形を使って胸部を圧迫する心肺蘇生とAEDの操作でしたが、参加者は皆初めてとあって真剣に取り組んでいました。

つうけんアドバンスシステムズでは、本社ビル・システム開発センタビル・東京事業所に各1台、つうけんアクトでは、本社ビルに1台AEDを設置しています。2012年度の講習会では25名が受講しました。



AED救命講習

「防災・減災」研修に参加 つうけん

東日本大震災はいうまでもなく、日本各地で発生している地震や風水害などの自然災害により、多くの被害が発生しています。このような災害は「いつ」「どこで」起きるか分かりません。つうけんでは、普段からさまざまな災害を想定し、「自分の命・家族の命を守る」をテーマにしたNTT札幌セミナーセンターの「防災・減災研修」に参加しました。

研修内容は、座学「災害、危機に備えて」、体験学習は救急救命方法、身近な物で作る防災代替えグッズ、要介護者ケア方法、DGI(簡易型図上防災訓練)等で、災害に備える意識や知識を深めました(参加者10名)。

協力会社との取り組み

パートナー会社連絡会 日本コムシス

2012年5月31日、日本コムシスのNTT事業本部では全国のNTT事業に従事するパートナー会社の経営層を対象に、コムシスの事業状況・経営方針の伝達および2012度より本格実施しているパートナーシップ制度の導入状況を伝えるために連絡会を開催し159名が参加しました。また、6月6日、ドコモ事業本部では全国のドコモ事業関連の施工協力会社に事業運営方針を理解していただき、Xi(クロッシィ)の本格的なエリア展開やスマートフォンの増加に伴うネットワーク高度化、およびmova(PDC)サービスの終了に伴う設備撤去等、膨大な工事を無事故で完遂させるための連絡会を開催し、93名が参加しました。

情報セキュリティ事故撲滅に向けた説明会を開催 CJS

セキュリティ事故が起きた場合、自社だけではなく、お客様、お取引先、ビジネスパートナーなどに大きな影響を与え、取引停止・賠償問題に及ぶことも想定されます。

CJSでは、ビジネスパートナー全67社を対象に「情報セキュリティ事故撲滅に向けた説明会」を開催し、セキュリティに対する意識向上を図りました。

メンタルヘルス・マネジメントを強化

メンタルヘルス研修の実施 コムシスグループ

コムシスグループでは、職場のメンタルヘルス強化の取り組みとして、職場内でのメンタルヘルスの現状やストレスと上手に付き合う方法について毎年メンタルヘルス研修を行い、ストレスケア、同僚の異変に気づく方法などの健康サポートを行っています。また、社員からの心の悩み等の相談については、専門家によるカウンセリングを電話や面談を通じたフロー体制により実施し、社員の健康管理に努めています。



社員のレベルアップに向けた取り組み

多能工育成への取り組み TOSYS

TOSYS佐渡事業所は2012年10月に新事務所が完成し、旧事務所（2カ所）からの移転も終了した11月16日に新事業所の開所式を行い、設計・施工・保守業務の三位一体の事業運営がスタートしました。

これまでは、設計・施工部門と保守部門が別々の事務所で各々の業務を行っていましたが、新事務所の設置に伴い3部門が同一事業所・同フロアにおいてお互いに協力し合い、効率的な業務運営を行うことで、佐渡という地域性に対して全社員が一体となって取り組み、地域発展に貢献できる体制に移行しました。

島という特別な環境を持つ佐渡において各々の担当が個別に業務を行うためには、いかに効率的に業務を行うかという点が課題となります。今後の業務運営については、NTT様からの「全国的に所内外設備保守を委託していることは珍しいが、メンテナンスを担うサービスセンタと設計・施工を行う工事部門が一体となり、お客様サービスを提供できること」というご期待に的確に答えていくべく、体制を確立していくこととしています。具体的には、現場OJTを主体にローテーションによる技術の習得、同行による業務実演などにより、複合的な業務運営に向けて取り組んでいます。



プロジェクトマネジメント研修を開催 CJS

CJSでは、プロジェクト管理レベルの向上、失敗プロジェクトの撲滅を目的に、プロジェクトマネジメント研修を行っています。2012年度は、外部講師を招いて、プロジェクトリーダーを対象に「プロジェクトマネジメント計画編コース」、プロジェクトマネージャを対象に「複数PJにおけるリスクマネジメントコース」を開催しました。

システム基盤構築研修を開催 CJS

CJSでは2012年度、外部講師を招いて、システム開発において近年需要が高いシステム基盤構築の研修を9日間開催しました。研修では、LinuxベースのWebシステム構築技術、システム基盤の設計手法など、ソフトウェア開発以外の新技術を中心に、実習を交え、より実践に近い最新技術を学びました。

班長セミナー開催 日本コムシス

日本コムシスでは、全認定班長に対し、現場第一線の監督者として指示処分、改善勧告阻止に向けた人身・設備・交通事故を絶対に起こさない意識をはじめ、現場指導力の向上、リスクアセスメント、安全施工サイクルなどについての研修を行っています。



認定試験の様子

階層別研修の実施 コムシスグループ

コムシスグループでは、キャリアアップを目的として階層別研修を実施しています。新入社員の1年後のフォローアップ研修や若手社員の3年目のフォローアップ研修、また、中堅社員や管理者を対象とした研修など、各ステップアップ時にさまざまな研修を実施しています。

従業員とのコミュニケーション

○ 経営層と社員とのコミュニケーションの促進

社長対話会の開催 コムシスグループ

コムシスグループでは、各社のトップと社員とが直接コミュニケーションを図ることができる「対話会」などの交流の場を設けています。それぞれが「垣根」を払い、さまざまなことについて気兼ねなく話し合える有意義な機会として、積極的に活用されています。



伊東副社長（現社長）との意見交換会

日本コムシスでは、伊東副社長（現社長）が全国各地の支店や現場を訪問し、目指すビジョンや各部門の現状についての講話や社員および協力会社社員と対話会を行いました。

サンコムでは、社長がお客様訪問や安全パトロールのため支店へ出張する際、支店社員および協力会社社員との対話会を実施しています。2012年度は全支店で実施しました。

TOSYSでは、社長による各エリアの安全パトロール実施後、各エリアの社員との対話会を実施しています。2012年度は、新潟エリアで6回、長野エリアで4回実施しました。また、2012年4月の3年経過社員のフォローアップ研修、7月の新任課長研修、11月の新入社員のフォローアップ研修等の機会にも社長との対話会が開催され、社長から体験を通じたアドバイスが話されました。

CJSでは、品川ビルにてコムシスHDの高島社長とCJS社員との対話会を開催しました。コムシスグループの経営環境や構造改革への取り組み、唯一の情報システム括会社としてのCJSに期待することについて講話を受け、その後活発な意見交換を行いました。

先輩社員・他事業本部との交流会 日本コムシス

2012年10月17日に大崎ビル2階会議室にて、日本コムシスのNTT事業本部「全国営業／エンジニアリング部長会議」を開催しました。全国から約50名が参加し、企画部長等が事業計画などについて説明をした後、意見交換を行い、情報共有を図りました。

同日、各事業本部の幹部や先輩社員による業務説明会・意見交換会も開催しました。会社や市場の動向をはじめ、各事業本部の業務内容等の最新情報説明や、先輩社員から貴重なアドバイス等がありました。今回で3年目となりますが、毎年、活発な質問・意見交換が行われています。

「女性対話会」「相談役講話」を開催 サンコム

サンコムでは、社長と女性社員が意見交換を行う「女性対話会」、女性社員の意識向上を目的とした「相談役講話」を開催しました。

ホットラインを開設 日本コムシス TOSYS CJS

日本コムシス、CJSでは、マネジメント層に疑問や意見を直接伝えることができるホットライン「CANライン」を社内ポータルサイトに開設しています。またTOSYSでは、風通しの良い職場づくりを目指し、2008年から社内に投書箱「わたしの風」を設置しています。寄せられたさまざまな意見については、社長と関係部門で解決に向けた対応策を協議しています。

ダイバーシティの推進

○ 社員の働きがいについての取り組み

競技会史上初！女性エンジニアが優勝 日本コムシス

2012年7月に開催された「光通信工事技能競技会」において、日本コムシスの田中選手が優勝しました。女性エンジニアの優勝は、男女混合競技になって以来、初の快挙です。



優勝した田中選手（中央）

「普段どおりの施工ができた点が評価されたのだと思う」「社内の皆さんとタイムを競いながら準備を積んできた」という田中選手のコメントからうかがえるように、性別に関わらず技能向上に切磋琢磨する風土が醸成されています。

シニアエキスパート制度を導入 コムシスグループ

コムシスグループでは、定年退職（満60歳）後に勤務する意欲があり、雇用基準要件を満たす人材を継続して雇用する「シニアエキスパート制度」を導入しています。長く勤務したベテラン社員の熟練した技術や知識を、若い世代に継承するために重要な制度であると位置づけ、2013年3月末時点では、グループ全体で394名のシニアエキスパートを雇用しています。

また、社員を対象としたライフプラン研修も行っています。これまでの人生と今後の働き方について考え、一個人として充実した豊かな人生を送ることを目指すことを目的としています。

ディーセントな労働条件の提供

女性が活躍できる職場づくり

次世代育成支援対策法に基づく取り組み コムシスグループ

コムシスグループ各社において「次世代育成支援対策法」に基づき、それぞれの行動計画に沿った取り組みを行っています。日本コムシスでは2008年に、サンコムでは2011年に「次世代育成支援対策推進法認定マーク（くるみん）」を取得しました。日本コムシスでは18名が育児休業を取得したほか、サンコムでは2名、CJSでは1名が育児休業を取得し、つうけんでも1名が育児休業に伴う短縮勤務を実施しています。

2012年度 杉並区子育て最優良賞を受賞 サンコム

サンコムの育児休業を利用しやすい職場環境づくりなどの取り組みが認められ、2012年度の杉並区子育て優良事業者に選定され、最優良賞を受賞しました。



杉並区子育て優良事業者
最優良賞表彰状



最優良賞のステッカーとトロフィー

具体的活動内容としては、女性が働きやすい職場づくりや女性のキャリアアップの実現に向けて、女性社員と社長、または社員同士が意見交換を行う「女性フォーラム」を2009年度から毎年開催しています。

また、仕事と家庭の両立に向けて、水曜日と金曜日のノー残業デーや有給休暇取得推進のためのブリッジホリデーなどの取り組みを推進し、職場環境の整備を行っています。さらに、ソフトボール大会や森林保全活動など家族で参加できる行事を開催しています。



くるみんマーク

こうした活動を推進する中で次世代育成支援対策法に基づく行動計画に沿った取り組みを行い、2011年度には子育てサポート企業として国から「くるみん」の認定を受けました。

●育児制度を利用しました

上司の理解のもと、妊娠中には通勤緩和の時短（有給）を1ヵ月取得させていただきました。また、産前休暇前には年次有給休暇を取得して2週間ほど早く休みに入らせてもらいました。制度を利用して仕事と育児を両立していますが、「子の看護休暇」の有給（数日）、子育て中に時短を利用したいときに利用できるなど、より子育てがしやすい制度が導入されると嬉しいです。また、若い方には今後、自分がどういう働き方をしたいか上司とコミュニケーションを取り、自分に無理のないように制度をうまく利用してほしいですね。



サンワコムシスエンジニアリング
エンジニアリング統括本部 係長
渡邊 郁子

○ ワークライフバランスの推進

エリア職社員制度を導入 日本コムシス サンコム CJS

地元志向の優秀な人材の確保と定着を目指し、勤務エリアを限定した「エリア職社員制度」を導入しています。個人の価値観やライフスタイルが尊重され、長年住み慣れた地元で専門性を高めていくことができる、新しい働き方が可能となりました。

2010年度はこのエリア職を新卒採用でも初めて導入し、日本コムシスで12名が入社しました。この制度を利用し、2013年3月現在、日本コムシスでは93名、サンコムでは52名、CJSでは38名のエリア職社員が在籍しています。

○ 総労働時間縮減への試み

長時間労働の解消に向けた労使間の取り組み コムシスグループ

コムシスグループ各社の労働組合は、情報労連と連携しながら組合活動を行っています。春闘・秋闘では経営陣を交え、労使間で忌憚ない意見交換を行うなど、これまで培ってきた信頼関係の維持・発展に努めています。

TOSYSでは、長時間労働と恒常的な時間外労働を削減するために、労使間で定時退社日（水曜日）、年休取得推進週間などの各種施策を通じて、リフレッシュを図っています。このほか、水曜日の定時退社日を活用した職場でのレクリエーション（ボウリング大会）等も実施しています。

つうけんでは、労使間で密接な話し合いを行いながら、毎週水曜日をノー残業デーに設定したり、長時間労働者への医師による面談・指導を法令で定める以上に充実させるなど、時間外労働の削減に積極的に取り組んでいます。



TOSYSボウリング大会

○ 公正な人事評価・給与体系

成績に対するフェアな評価の実践 コムシスグループ

コムシスグループでは、組織的な社員の育成を行う一方で、社員の業績をフェアに評価するための取り組みを積極的に行っています。各社で導入している目標管理制度では、上司と部下が面談する機会を設け、事業目標を共有した上で、各個人が実現可能なより高い目標を設定しています。評価については、個人の成果を数値化することにより公平性と透明性を確保し、組織単位での業績貢献度も加味するなど、多角的視点を取り入れています。業績と職務能力を公平かつ確実に評価できる制度とすることにより、社員のモチベーション向上に努めています。

公正な事業慣行 | オープン・フェアな企業文化

公正で堅実な事業活動を通じてパートナーシップとコミュニケーションを構築します。



基本的な考え方

コムシスグループで働く一人ひとりが事業を堅実に遂行するために、コンプライアンスの徹底、情報セキュリティとリスクマネジメントの強化に取り組んでいます。お取引先との相互理解と信頼関係の構築に努め、より良いパートナーシップによる公平・公正な取引を徹底し、企業価値経営の実践、積極的な情報開示、コミュニケーションの充実をお約束します。

コンプライアンス

○ コンプライアンス体制

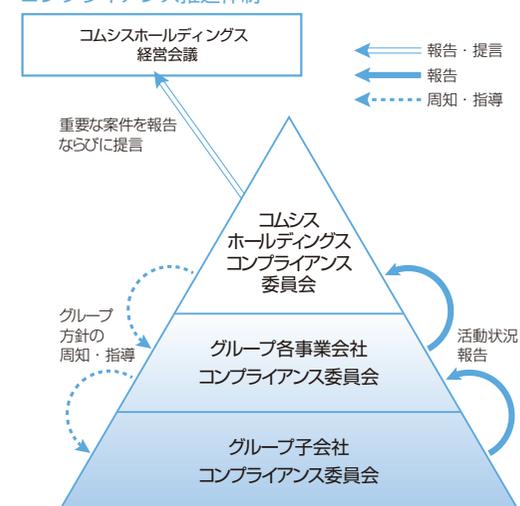
コムシスグループ行動規範 コムシスグループ

コムシスグループにおけるコンプライアンス（法令・企業倫理の遵守）を徹底するためには、グループ各社の社員一人ひとりがコンプライアンス行動指針に基づいた日常行動を徹底することが求められます。コムシスグループの役員・社員一人ひとりが具体的に遵守すべき行動原則として「コムシスグループ行動規範」を2010年3月に制定し、グループ各社の社員全員が実践すべき行動を示しています。

コンプライアンス推進体制の整備 コムシスグループ

2004年1月に制定された「コンプライアンス・プログラム」に基づき、コムシスグループのコンプライアンス体制の構築、強化に取り組んでいます。本プログラムで定めた「コンプライアンス行動指針」をグループ共通の行動指針として各社のコンプライアンス規程などに反映しています。また、グループ各社のコンプライアンス担当役員、社外監査役などをメンバーとしたコンプライアンス委員会を定期的に開催しています。各社からの活動状況などの報告により、情報を共有し、グループ各社の均質化に取り組んでいます。

コンプライアンス推進体制



○ 相談・通報体制

ホットラインの設置 **コムシスグループ**

コムシスグループ各社の社員が日常の行動において、判断に悩んだときの相談・通報窓口として、ホットラインを設置しています。グループ各社の総務部コンプライアンス担当が対応するほか、社外の相談窓口として法律事務所の利用が可能です。寄せられた相談・通報については、コンプライアンス委員会にて、社外の有識者から助言や提言をいただくなど、適切なフィードバックに努めています。

公益通報制度を運営 **コムシスグループ**

コムシスグループでは、コンプライアンス経営への取り組みを強化するために、「公益通報者保護規程」を策定しました。これは公益通報者保護法と内閣府のガイドラインに基づいて、社員や契約社員、嘱託、派遣社員からの通報により、組織的または個人的な法令違反行為などの早期発見と是正を図ることを目的とし、公益通報制度を適正に運営するためのものです。

○ 研修の実施

コンプライアンス徹底に向けた取り組み **サンコム** **TOSYS**

近年、現場を取り巻く環境は法令遵守はもとより、マナーやモラルも高いレベルで要求されています。

サンコムでは、「現場のコンプライアンス強化」活動として奥前社長を委員長としたコンプライアンス強化プロジェクトを立ち上げ、全国3,600名の現場作業従事者へコンプライアンス向上教育を実施しました。



サンコム コンプライアンス研修

TOSYSでは、2012年2月に新潟、長野で「コンプライアンス研修」を実施し、857名が参加しました。研修では、企業に求められる社会的責任、過去の事例のほか、「心の隙間のセキュリティ、常に戒めの心がけ」と題し、事故が起きやすい職場環境と対策などについて、細部にわたる講話がありました。

また、暴力団排除条例施行に伴い、不当要求防止責任者を2名配置し、体制を強化するとともに、危機管理に特化した研修を飯田、伊那、諏訪で開催し、50名が参加しました。

建設業法講習会・研修会を開催 **日本コムシス** **つうけん**

日本コムシスでは、2012年11月8日に東海支店にて「建設業法講習会」を開催しました。

支店ビルでの受講者は40名となり、会場は熱心に話を聴く社員で溢れました。当日は静岡TS、豊川TS等、各TSともTV会議システムでつなぎ、多数の社員が受講しました。建設業法を基礎から学び直し、法令遵守の大切さを再認識し、充実した講習会となりました。

つうけんでも、建設業法における個別原価管理と不正操作の違法性について、2012年10月24日に研修会を開催しました。税理士・弁護士を講師に招き、社長をはじめ支店長・管理職など計40名が参加して、原価管理の意義と諸法令との関係を再認識しました。

リスクマネジメント

○ リスクマネジメントの方針

企業活動は、さまざまな外部および内部的発生要因により大きな影響を受けることが想定されます。グループの経営ビジョン実現に向けた経営活動を持続的に発展させるためには、グループを取り巻くリスクを的確に管理していくことが求められます。そのため、日頃から事業活動に付随するリスクを適切に把握し、危機発生の回避と万一の場合の事前準備を社会的責任のひとつとして受け止め、リスクマネジメントに取り組んでいます。

○ 情報セキュリティ

e-ラーニングなどで情報保護に関する教育を強化 コムシスグループ

コムシスグループでは、個人情報を含む企業情報の漏えい事故防止のための社員教育にも注力しています。e-ラーニングでは情報セキュリティの基礎知識や要員としての責務を学び、社員各自がそれぞれの理解度を確認しながらスキルアップを図っています。

コムシスグループ各社のe-ラーニング受講修了率

	2012年度	2011年度
日本コムシス	98.4%	99.6%
サンコム	97.9%	97.0%
CJS	99.5%	97.5%
CSS	100%	100%

※TOSYSでは全社員を対象とした集合研修を実施しています。また、つうけんでは年1回個人情報保護教育を全社員、施工会社社員を対象に実施して、書面で確認しています。

個人情報保護等に関する全従事者研修の実施 TOSYS

TOSYSでは、個人情報保護について、857名の全従事者に対する研修を実施しました。日常業務における個人情報等に関わる基本ルールの解説を中心に、具体的な例示を交えた研修を行い、企業としての社会的責任の重要性を浸透させる取り組みを展開しています。また、プライバシーマーク制度の認定についても今回で4回目の更新を行うなど、情報保護について継続して取り組みを実施しています。



情報保護に関する教育の実施 つうけん

つうけんでは、社員、グループ会社社員を対象として、年1回情報保護に関する教育を実施し、個人情報管理の重要性および社員個々人のモラルや意識向上の醸成を図ることにより、個人情報の漏えい・紛失等の事故防止に向けて取り組んでいます。

お客様情報の漏えい防止をシステム化 コムシスグループ

コムシスグループでは、お預かりしているお客様情報の漏えい防止策の一環として、「セキュリティのシステム化」や「セキュリティパトロール」を通じ、職場から家庭までを含めた対策を実施しています。「セキュリティのシステム化」のツールとしては「COM.PASSカード」を導入して、業務で使用するすべてのパソコンの起動制御やファイルの暗号化、オペレーションの履歴取得を行うなどのセキュリティ対策の強化に取り組んでいます。

情報セキュリティの現場点検を実施 CJS

CJSでは、お客様から信頼されるパートナーであり続けるため、情報セキュリティの現場点検を実施しています。情報セキュリティ委員がお客様の各現場まで出向き、守るべきルールと遵守状況の確認などを点検しています。

○ 調達の基本方針

コムシスグループ各社では、それぞれの業態に合わせて資材や役務などに関する調達のための基本方針を策定し、法令遵守のもと、方針に沿って、オープンでフェアなお取引を通じて信頼関係の構築に努めています。

日本コムシスにおける調達の基本方針 日本コムシス

▶ 公平・公正な取引

お取引先選定は、資材・役務の品質・信頼性・納期・価格ならびにお取引先の経営安定性などを総合的に評価して公平・公正に行います。

▶ 法令・社会規範の遵守

法令・社会規範および社内規程を遵守し、健全で公正な調達を行い不正な行為には加担しません。

▶ 品質の確保

当社の「品質方針」に沿って品質と安全を優先し、さらにコストについても重視します。

▶ お取引先との良好なパートナーシップの構築

相互信頼関係に基づき、お互いの技術力の向上を図るとともに、良好なパートナーシップの構築に努めます。業務上の立場を利用した収賄、強制横領を行いません。

▶ 機密情報の保護

取引を通じて知り得た機密情報は、お取引先の承諾なしに第三者に開示いたしません。

コミュニティへの参画 | 地域とともに育てていただく

社員一人ひとりが社会とのさまざまなコミュニケーションを通じて、ともに成長していくことを目指します。



基本的な考え方

良き企業市民として、社会の要請と信頼に応え、国内外において自社の事業を通じた社会貢献活動を通しコミュニティへの参画を推進しています。さらに地域社会の一員として、地域の皆様とのコミュニケーションを深めるとともに、地域貢献に向けたさまざまな取り組みを行っています。

コミュニティへの積極的な参画

○ 教育・文化・スポーツ面での貢献

障がい者スポーツ大会のネット中継をサポート 日本コムシス

日本コムシスでは、飯塚国際車いすテニス大会や全日本視覚障害者柔道大会において、大会期間中にNPO法人STANDが運営するインターネット中継「モバチュウ」に関わるADSL回線引込・接続設定、大会後のLAN配線の撤去作業などの支援活動を行っています。



飯塚国際車いすテニス大会



全日本視覚障害者柔道大会



全日本視覚障害者柔道大会
配線作業の様子

インターンシップを実施 つうけん

つうけんでは、2012年8月に1週間、北海道内の大学4校から4名の学生を受け入れ、事業概要説明のほか、各事業部において現場見学、光・メタルケーブル接続演習などを行いました。

11月には3日間、北見支店で工業高校の学生4名を受け入れました。インターネットや電話が開通するまでの仕組みやつうけんという会社を学んでもらうことにより、業務内容にも興味を持ってもらうことができました。



LEDについて児童対象の勉強会を実施 つうけん

つうけんでは、2012年12月と2013年1月に計3日間、札幌市内3カ所の児童会館にて、LEDについて知ってもらうことを目的とした児童対象の勉強会を実施しました。

「LEDって知ってる？」というテーマでLEDの仕組みや長所、三原色についてなど、クイズや実験を取り入れて説明しました。

児童131名、職員10名、合計141名もの参加者にLEDについて理解してもらい、児童からは「冬休みの自由研究にしたい」との感想も聞かれました。



通信設備工事における地域交流 日本コムシス

鳥取自動車道通信設備工事における地域交流の一環として、西粟倉幼稚園で園長先生のご指導のもと、園内のプランター植栽や樹木の枝払いをお手伝いしました。最後に園児とふれあう時間があり、紙芝居や糸電話を通じて交流を深めました。その他、身体障がい者や高齢世帯を対象に玄関前の除雪を行う、西粟倉村社会福祉協議会の雪かきボランティアに参加しました。



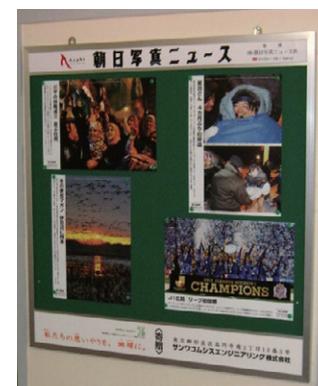
子供向けパンフレット「サンコムのごと」作成 サンコム

サンコムでは、「お父さん・お母さんがどんな仕事をしているんだろう」をテーマに、写真や絵をふんだんに使用した小学校低学年向けの冊子「サンコムのごと」を作成しています。



地元小学校に写真ニュース掲示板を寄贈 サンコム

サンコム本社のある東京都杉並区の杉並第八小学校に、朝日写真ニュース一年分および専用掲示板を寄贈しました。



コムシスグループの募金活動 コムシスグループ

コムシスグループでは、幅広い分野に対して募金活動を実施しています。

主だった分野としては、環境分野に約200万円、健康・スポーツ・教育・文化分野に約80万円、東日本大震災をはじめとする災害支援分野に約40万円のほか、地域社会貢献や福祉、ソーシャルインクルージョン分野に約40万円といったものが挙げられます。

国境なき医師団への貢献 CSS

CSSでは、社会貢献型自動販売機を利用することにより、ベンダーを経由して「国境なき医師団」へ寄付されます。2012年度の寄付金の総額は392,045円でした。自販機設置をお願いしているお客様へは「設置費用」、ドリンクを飲んでいる皆さんには「低価格でのご提供」、そして、意識することなく自動的に「国際貢献」を実現できるWin-Win-Winの関係が成立しています。



全国各地で清掃・美化運動を展開 コムシスグループ

コムシスグループでは全国各地において、清掃・美化活動に力を入れています。地域の自治体・自治会などが主催する清掃活動に積極的に参加しているほか、事業所周辺での自主的な清掃活動なども定期的に行っています。

●大阪市「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」への参加 日本コムシス

日本コムシスの関西支店では、2012年11月19日と21日の昼休みに谷町ビル、森之宮ビル周辺道路の清掃を実施しました。これは、11月25日に開催される大阪マラソンに向けた、大阪市の清掃活動「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」を実施したも



谷町ビル周辺の清掃参加者

ので、合計100名以上の社員や協力会社の方々が参加しました。

そのほかの各事業所でも、近隣の道路や公園などビル周辺の地域清掃を行っています。

●町内清掃の実施 TOSYS つうけん

つうけん本社では、環境保全および地域貢献活動の一環として、毎年、春と秋に本社ビル周辺において町内の清掃活動を行っています。本社社員全員で空き缶やペットボトル、タバコの吸殻等のゴミを拾いました。

TOSYSでも、2012年10月、秋の鳥屋野湯一斉清掃（新潟市主催）に社員・家族ら約50名が、屋島河川敷清掃（長野市犀川）に北長池ビルの社員、家族、協力会社の皆さん約50名が参加し、清掃活動を実施しました。特に、屋島河川敷清掃については、電設・IT事業部門が中心となって毎年行っており、2012年度は約200kgの不燃物と可燃物を回収しました。年々ゴミの回収量は減少していますが、まだゴミが投棄されていることから、少しでもポイ捨てが減ることを願い、今後も継続して清掃活動を行っていきます。



地域社会との交流

○ 地域交流イベントを開催

2012ドリームフェスタの開催 TOSYS

TOSYSは地域に根差し、地域とともに発展する企業を目指し、2012年10月1日、「東日本システム建設株式会社」から、呼称としても親しまれ認知度も高い「株式会社TOSYS」に社名を変更しました。

2012年6月16日には、“つなごう！地域の絆、TOSYSグループの絆”をテーマに、長野市のホワイトリングにおいて毎年恒例の「ドリームフェスタ」（第20回）を開催しました。

ドリームフェスタでの目玉である「チャリティーバザー」は地域の皆さんに好評で、開催時間前から多くの方にお越しいただき、社員が提供した商品はほとんどお買い上げいただきました。ほかにも長野・新潟県内各地より野菜やお菓子などの出店が集まった楽市や、スポーツ大会を開催。TOSYSグループ、日本コムシス、CJS・炭平コーポレーションから16チームが参加し、社員間の親睦を深めました。

約800名の社員・家族、地域の皆さんが訪れ、盛況の中で幕を閉じました。

また、チャリティーバザー、楽市での収益金は会社とのマッチングギフトと合わせて、「トキ環境整備基金」に30万円を贈呈しました。



○ 地域イベントへの参加

地域の祭事への参加 日本コムシス サンコム TOSYS つうけん

日本コムシスでは、北海道「ミニ大通 お散歩祭り」に参加し、野菜販売を行ったり、ビルのトイレや備品の貸出しなどを行いました。

日本コムシスとサンコムでは、「第56回東京高円寺阿波おどり」において、「コムシスグループ連」を結成し、踊り手として参加しました。2日目は大会運営のボランティアに参加して会場の清掃活動を行い、大量のゴミを分別して資源を換金し、インドの教育支援に充てるお手伝いをしました。

TOSYSでは、毎年8月に新潟市と長野市で開催される2大祭りに参加し、社員や地域住民の皆さんと交流しています。

つうけんでは、「旭川夏まつり」で、地域貢献とつうけんグループの親睦を図ることを目的に、「大雪連合神輿」に参加しています。また、小樽支店は「おたる潮まつり」（7月）、釧路支店は「くしろ港まつり」（8月）、函館支店は「函館港まつり」（8月）など、各支店においても地元の祭りに参加しています。



旭川夏まつり「大雪連合神輿」



東京高円寺阿波おどり

もちつき地域交流会へ参加 日本コムシス

日頃お世話になっている現場周辺の住民の皆さんとの交流を深めるため、東京都渋谷区の豊恵町会主催「第57回もちつき地域交流会」に参加しました。

ボランティア

ライトアップ日本2012への協賛 日本コムシス

日本コムシスでは、「東日本を襲った未曾有の地震と津波に被災された一人ひとりが、ふたたび明日へと歩みはじめるきっかけをつくりたい。

東北を、日本を、花火で、元気に。」といった主旨に賛同し、「ライトアップ日本2012」に協賛しました。社員からの募金により、「追悼」と「復興」の祈りを込めた花火が東北の太平洋沿岸で打ち上げられました。



きれいな町づくりの推進 日本コムシス

東京都渋谷区の恵比寿東公園にて、芝植え作業のボランティア活動を行いました。

外部表彰

「平成25年度北海道開発局優良工事等表彰」を受賞 つうけん

つうけんでは2012年3月から2013年2月までの約1年間にわたり、北海道開発局様発注による「札幌開発建設部管内 道路照明設置工事」を施工しました。札幌市内の国道6路線において道路照明303基、歩道橋照明16カ所の照明をLED化する工事で、灯具つらら対策、材料調達、夜間施工、国立公園協議、冬季施工等の問題がありましたが、監理技術者、現場代理人ほかスタッフの迅速な対応により工期内無事故での完成ができました。このことが評価され、会社並びに西村俊彦監理技術者が「平成25年度北海道開発局優良工事等表彰」を受賞しました。



献血活動への協力 TOSYS

TOSYSでは長年にわたり献血活動に積極的に協力していることが認められ、2012年7月19日、長野地域献血推進協議会総会において「保健衛生関係功労者」の長野県知事表彰を受賞しました。2012年8～10月には、合わせて約100名が献血を行いました。



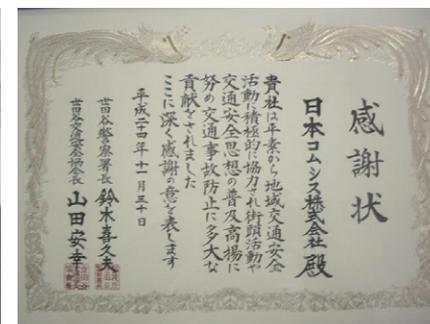
新潟においてもすでに新潟地域献血推進協議会表彰を受賞しており、2012年度は約80名が献血を行いました。

引き続き、善意の広がりとして「献血運動」に取り組み、社会に貢献していくこととしています。

人命救助に対する感謝状の授与 日本コムシス

徳島県鳴門市の民家で発生した火災現場で79歳の男性を救助したことに対し、日本コムシスグループのフォステクノ四国の社員に鳴門警察署長より感謝状が授与されました。現場作業中に近隣の民家で発生した火災現場からその場に居合わせた2名の方と協力し、男性を安全な場所に避難させるなどの救助活動を行いました。

また、日本コムシスでは世田谷警察署より、地域交通安全活動に積極的に協力し、街頭活動や交通安全思想の普及高揚に努め、交通事故防止に貢献したとして、感謝状をいただきました。



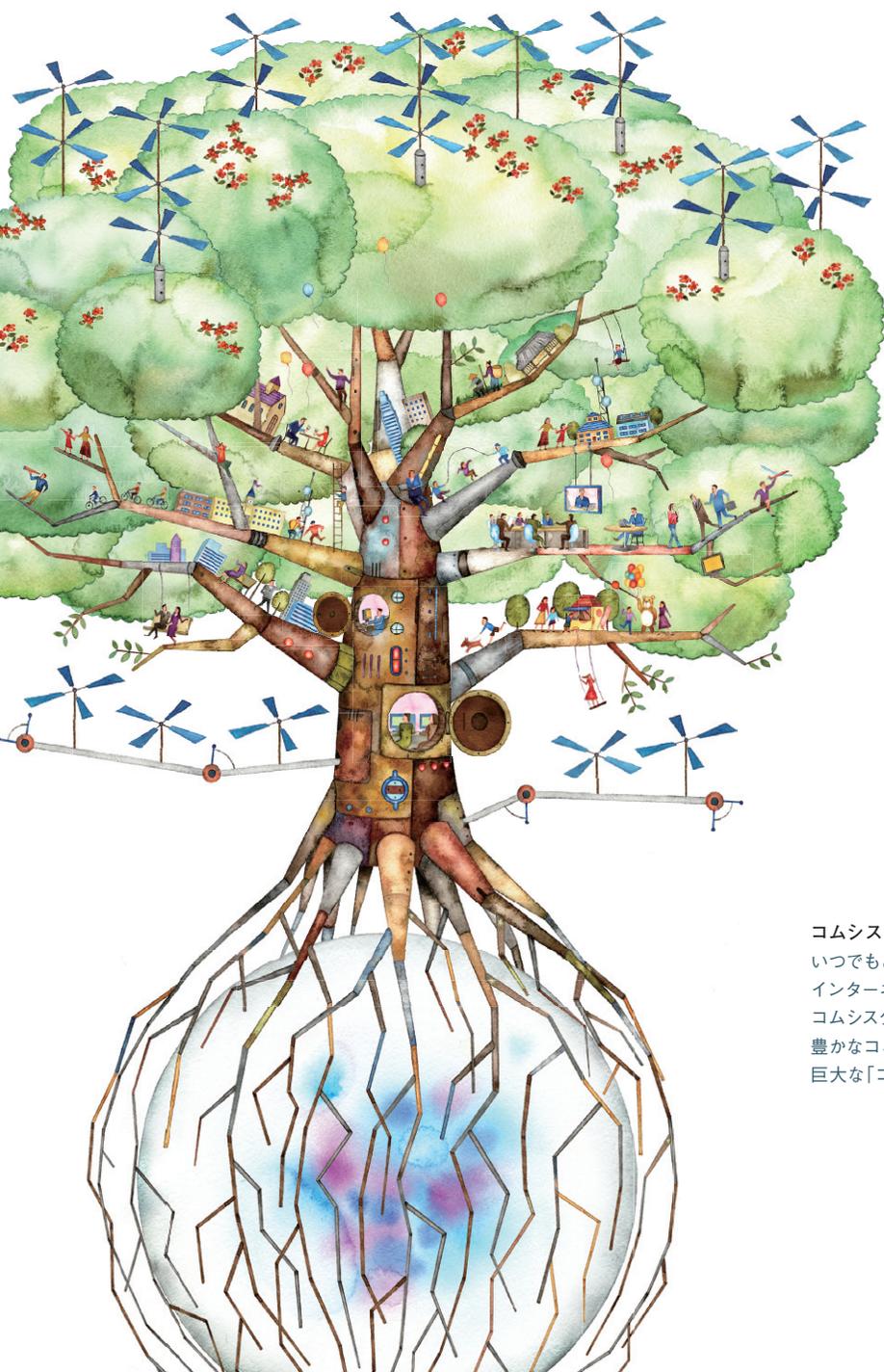
●参考資料

コムシスグループCSRのあゆみ

●コムシスホールディングス ●日本コムシス ●サンコム ●TOSYS ●つうけん ●CJS ●CSS

1940年代	
1947年	●三和電気興業株式会社設立
1950年代	
1951年	●日本通信建設株式会社設立 ●大北電建株式会社設立
1954年	●北海道電話工事株式会社・北海道通信工事株式会社と合併
1960年代	
1960年	●新潟電話工業株式会社設立
1961年	●共栄工業株式会社と合併、北日本通信建設株式会社に社名変更
1967年	●ソフトウェア要員の養成開始
1968年	●大榮通信工業株式会社と合併、三和大榮電気興業株式会社に社名変更
1970年代	
1979年	●情報エンジニアリング部を新設。ソフトウェア開発事業を本格的に開始
1990年代	
1990年	●日本コムシス株式会社に社名変更
1992年	●株式会社つうけん社名変更
1996年	●株式会社三和エレクトリック社名変更
1997年	●ISO9001を組織別に認証取得 ●信越通信建設株式会社と合併、東日本システム建設株式会社に社名変更
1998年	●ISO9001を本社および全支店で認証取得 ●テクノ電設株式会社と合併 ●ISO9001認証取得
1999年	●コムシス大宮ビルに太陽光発電システムを導入 ●ISO9001を関連会社へ拡大 ●ISO9001認証取得／ISO14001認証取得
2000年代	
2000年	●「コンプライアンス規程」を制定
2001年	●ISO14001を全社で認証取得／ISO9001を全社・全組織に統合
2002年	●「コンプライアンス・マニュアル」を作成 ●ISO9001登録変更／OHSAS18001認証取得 ●OHSAS18001認証取得

2003年	●コムシスホールディングス・三和エレクトリック・TOSYSの3社共同の株式移転により、 純粋持株会社としてコムシスホールディングス株式会社設立 ●ISMS組織別認証取得 ●ISO14001認証取得 ●日本コムシスの共通業務をアウトソーシングし、コムシスシェアードサービス株式会社を設立
2004年	●ISMSを全社・全組織に拡大 ●プライバシーマーク認証取得 ●ISO14001認証取得
2005年	●企業理念、行動指針を新たに制定 ●サンワコムシスエンジニアリング株式会社に社名変更 ●JIS Q 27001認証取得
2006年	●COHSMSを全社認証取得 ●厚別ビルに太陽光発電システムを導入 ●プライバシーマーク認証取得
2007年	●総務部CSR推進室を発足 ●情報セキュリティ向上のため、ISO/IEC27001へ移行
2008年	●コムシス高円寺ビルに太陽光発電システムを導入 ●プライバシーマーク認証取得 ●総務人事部広報・CSR推進室を発足 ●次世代認定マーク（愛称：くるみん）取得
2009年	●日本コムシスより情報事業を分社化し、コムシス情報システム株式会社設立 ●総務部CSR推進室を発足 ●総務部広報・CSR推進室に組織変更 ●総務企画部CSR推進室を発足 ●千葉テクノステーションに太陽光発電システムを導入
2010年	●コムシス北海道ビルに太陽光発電システムを導入 ●本社ビルに太陽光発電システムを導入 ●総務人事部CSR推進室を発足 ●ISO/IEC27001認証取得 ●株式会社つうけんと株式交換により経営統合
2011年	●次世代認定マーク（愛称：くるみん）取得



コムシスグループは
「通信ネットワークによって人と人、
人と社会がより豊かにつながる社会づくり」を
めざしています。

コムシスの木

いつでもどこでも当たり前のように携帯電話が楽しめること。
インターネットやテレビ電話会議でビジネスが、くらしがますます便利になること。
コムシスグループはその根幹となるネットワークを先進のITで支え
豊かなコミュニケーション社会の実現に貢献していることを
巨大な「コムシスの木」に喩えて表現しています。



コムシスホールディングス株式会社

CSR推進室

〒141-8647

東京都品川区東五反田2-17-1

TEL 03-3448-7190

FAX 03-3447-3993

URL <http://www.comsys-hd.co.jp/>



環境に配慮した植物油インキを使用しています。



この冊子に使用している用紙の売上の一部は、生物多様性を保全する活動に寄付されています。また、この紙を使用することで国産材の有効活用が推進されます。